

2019年1月23日  
中部電力株式会社

### 訓練計画説明に係る面談（5週間前）時の確認事項

#### ● 全般

##### ○訓練計画<資料>

- ・中期計画上の今年度訓練の位置付け・・・[資料①]
- ・今年度訓練の目的、達成目標・・・[資料①]
- ・主な検証項目・・・[資料①]
- ・実施・評価体制・・・[資料①]
- ・訓練の項目・内容（防災業務計画の記載との整合）・・・[資料①]
- ・訓練シナリオ
  - プラント運転状態、事象想定、スキップの有無等・・・[資料①②]
  - 現状のプラント状態を踏まえた訓練の実施方針・・・[資料③]
- ・その他
  - ERSS／SPDS の使用・・・[資料①]
  - COP 様式・・・[資料④]
  - 即応センター、緊対所レイアウト図・・・[資料⑤⑥]
  - ERC 対応ブース配席図、役割分担・・・[資料⑦]
  - ERC 書架内の資料整備状況（資料一覧）・・・[別途]

##### <資料>

①2019年度緊急事態対策訓練実施計画書	別紙1-1参照
②訓練シナリオ	別紙1-2参照
③現状のプラント状態を踏まえた訓練の実施方針	別紙1-3参照
④COP 様式	別紙1-4参照
⑤即応センターレイアウト図	別紙1-5参照
⑥緊急時対策所レイアウト図	別紙1-6参照
⑦ERC 対応ブース配席図、役割分担	別紙1-7参照

## ● 指標 1：情報共有のための情報フロー [P]

- 発電所、本店（即応センター）、ERC の 3拠点間の情報フロー・・・資料①
- ・情報フローとは、次の 5つの情報
    - ①EAL に関する情報
    - ②事故・プラントの状況
    - ③事故収束対応戦略
    - ④戦略の進捗
    - ⑤ERC プラント班からの質問への回答
  - について、いつ、どこで、だれが、なにを、どんな目的で、どのように、の観点での情報伝達の一連の流れをいう。
  - 情報フローにおいて、前回訓練における課題及び当該課題を踏まえた改善点を明示すること
  - ・情報フローの確認に際しては、前回訓練での情報共有における課題に対する改善策を反映したものにしているかを確認する。

<資料>

①情報共有のための情報フロー

別紙 2 参照

## ● 指標 2：ERC プラント班との情報共有 [D]

- ERC 対応ベース発話者の育成・多重化の考え方の説明
- 訓練当日、ERC 対応ベース発話者をくじ引き等により選定することの可否  
(否の場合は、その理由)

<説明>

### ○ERC 対応ベース発話者の育成・多重化の考え方

今年度より ERC 対応ベース発話者（メインスピーカー、サブスピーカー）の候補を新たに 3名選定し、計 4人の候補者に対して、計 1か月／回の頻度で実施している総合訓練（社内全社防災訓練）や図上演習（本部運営習熟訓練）等にて交互に対応訓練することにより育成・多重化に取り組んでいる。

また、3 社アライアンス（東京電力 HD 株式会社、北陸電力株式会社との原子力安全向上にかかる相互技術協力協定）の枠組みを通じ、模擬 ERC 役を相互に派遣して訓練を行い、評価やノウハウを共有し合う取り組みを実施している。さらに ERC 対応ベースのメインスピーカー、サブスピーカー、仕切り役については、2019 年度に年 1 回以上の他社訓練視察に行くこととし、他社の良好事例の導入と力量向上に取り組んでいる。

### ○訓練当日、ERC 対応ブース発話者をくじ引き等により選定することの可否

今年度訓練においては、発話者の育成・多重化を図るため、ERC 対応ブース発話者（メインスピーカー及びサブスピーカー）に新たな候補者を選定している。よって、今回の訓練ではなく新規候補者の中から選定する。

### ● 指標 3：情報共有のためのツール等の活用 [D]

- 3-1 プラント情報表示システムの使用
  - ・使用するプラント情報表示システムの説明（実発災時とシステムの差異も説明）
- 3-2 リエゾンの活動
  - ・事業者が定めるリエゾンの役割に関する説明
- 3-3 COP の活用
  - ・COP の作成・更新のタイミング、頻度に関する説明
- 3-4 ERC 備付け資料の活用
  -

#### **指標 3-1**

<説明>

### ○発電所－即応センター間のプラント情報表示システム

浜岡 4 号機で想定する事故シナリオは、訓練シミュレータと連動して実施するため、当該訓練シミュレータから出力された SPDS データを用いて訓練を行う。

SPDS データは、実機の中央制御室からの信号と訓練シミュレータからの信号の 2 系統があり、平時は実機の SPDS データが緊急時対策所及び即応センターに表示されるように設定しているが、訓練時は訓練シミュレータの SPDS データが表示されるように切替えを行うことで対応する。

### ○即応センター－ERC 間のプラント情報表示システム

ERC リエゾンが ERC に持ち込む PC を通じて、即応センターから ERC へ訓練シミュレータの SPDS 画面を伝送表示する。

原子力規制庁から ERC 対応ブース発話者又は ERC リエゾンへ要求があれば、ERC 対応ブースの要員が SPDS 表示端末を操作することで伝送表示している画面を切り替えることが可能である。

### ○実発災時とシステムの差異

ERSS 表示端末の導入は検討中のため、実発災時における ERC への情報共有は、発電所から伝送している ERSS データに加え、上述の対応により SPDS データを伝送表示することにより対応する。

### **指標 3－2**

<説明>

#### **○ERC リエゾン活動内容**

ERC リエゾンは、即応センターの活動を補助する目的で、資料の補足説明や質問対応及び ERC で得た情報の即応センターへの提供等を行う。

<ERC リエゾン対応のマニュアル記載事項（抜粋）>

- － 隨時更新される COP をはじめ、その他の即応センターが説明に使用する資料を入手・配布
- － ERC プラント班が必要とする情報に対し、即応センターからの情報が不足する場合には、即応センターへ追加情報等の発信指示
- － ERC プラント班と即応センターで認識の齟齬が生まれている場合には、追加説明の実施・即応センターへ追加情報の発信指示
- － TV 会議等のツールに不具合が発生した場合に即応センターへ対応を指示する等、ERC プラント班と即応センター間の円滑な情報共有の支援
- － ERC 広報班への広報資料の共有 等

### **指標 3－3**

<説明>

#### **○COP の作成・更新のタイミング、頻度**

COP は、プラント状態が変化する都度 (EAL 判断のタイミングなど) の作成及び更新を基本とする。

COP の種類	作成タイミング	更新タイミング (頻度)
・浜岡 4 号機 (適合炉用) 機能別状況シート (COP1)	ファーストキックの EAL 該当事象の発生から速やかに発行 (5 分程度を目標) ※体制構築までの時間は除く	プラント状態変化の都度更新 (状態変化が無い場合でも 30 分毎に更新)
・浜岡 4 号機 (適合炉用) 設備状況シート (COP2)		
・浜岡 4 号機 (適合炉用) 重大な局面シート (COP3)	注水停止又は除熱喪失後の戦略決定後に発行	戦略変更の都度更新 (-)
・浜岡 3 号機 (未適合炉用) 機能別状況シート (COP1)	EAL31 判断後、速やかに発行 (5 分程度を目標) ※体制構築までの時間は除く	プラント状態変化の都度更新 (状態変化が無い場合でも 30 分毎に更新)
・浜岡 5 号機 (未適合炉用) 機能別状況シート (COP1)		
・浜岡 3 号機 (未適合炉用) 重大な局面シート (COP3)	戦略決定後に発行	戦略変更の都度更新 (-)
・浜岡 5 号機 (未適合炉用) 重大な局面シート (COP3)		

## ● 指標4：確実な通報・連絡の実施 [D]

### ①通報文の正確性

- 通報FAX送信前の通報文チェック体制、通報文に誤記があった際の対応
- 発出したEALが非該当となった場合の対応
- 通報に使用する通信機器の代替手段

### ②EAL判断根拠の説明

—

### ③10条確認会議等の対応

- 10条確認会議、15条認定会議の事業者側対応予定者の職位・氏名

### ④25条報告

- 25条報告の発出タイミングの考え方
- 訓練事務局が想定する、今回訓練シナリオ上の25条報告のタイミング回数  
(訓練シナリオ中にも記載すること)

### 指標4-①

<説明>

#### ○通報FAX送信前の通報文チェック体制、通報文に誤記があった際の対応

通報・記録G班員（情報戦略班）が通報文を作成後、通報・記録G副班長（情報戦略班）及び発電所本部席要員が記載内容をチェックする。また、通報連絡実施後に通報文に誤記があることを確認した場合は、誤記がある通報文を見え消しで修正し、修正箇所を枠囲い等で明確にした通報文を作成し、原災法第25条報告様式に添付して再度通報連絡を実施する。

#### ○発出したEALが非該当となった場合の対応

発出したEALが非該当となった場合は、ERCに根拠の説明をした後、原災法第25条報告様式を用いて、当該EALの非該当を連絡する。また、非該当となったEALが再度該当した場合には、所定の通報様式で再度通報連絡を行う。

#### ○通報に使用する通信機器の代替手段

NTT回線FAXによる代替手段として、統合原子力防災NW回線IP-FAX（地上）又はIP-FAX（衛星）を使用して通報連絡を行う。

### 指標4-③

<説明>

#### ○対応予定者の職位・氏名

個人情報のため非公開

#### **指標 4-④**

<説明>

##### ○25条報告の発出タイミングの考え方

原災法第10条事象発生以降は、プラント状況の定期連絡として概ね30分目途に原災法第25条報告を実施する。ただし、原災法第25条報告作成中に原災法第10条通報事象が発生した場合は、迅速な情報共有の観点から原災法第10条通報を優先する。

##### ○訓練事務局が想定する、今回訓練シナリオ上の25条報告のタイミング回数

今回の訓練シナリオでは、3通予定している。ただし、訓練終了タイミングや訓練シミュレータでの運転操作、プラント挙動により増減する可能性あり。

#### ● 指標5：前回訓練の訓練課題を踏まえた訓練実施計画等の策定〔P〕

- 訓練実施計画が、前回訓練の訓練結果を踏まえ、問題・課題に対する改善策が有效地に機能するものであるか検証できる計画（訓練実施項目、訓練シナリオ等）となっていることの説明
- 訓練時における当該改善策の有効性の評価・確認の方法（例えば、訓練評価者が使用する評価チェックリスト（改善策の有効性を検証するための評価項目、評価基準などが明確になっているもの）が作成されていることなど）の説明
- 課題の検証につき、社内自主訓練・要素訓練、他発電所の訓練で対応している場合は、その検証結果の説明
- 令和元年度の訓練で課題検証を行わない場合にあっては、その理由と検証時期の説明、中期計画等への反映状況の説明。また、令和元年度の訓練で課題検証を行わずとも緊急時対応に直ちに問題は無いことの説明

<資料>

①前回訓練の訓練課題を踏まえた訓練実施計画等の策定

別紙3参照

## ● 指標6：シナリオの多様化・難度〔P〕

- 訓練シナリオのアピールポイント
- シナリオ多様化に関し、付与する場面設定（第11回事業者防災訓練報告会資料別添1-1の指標6の「場面設定など」の部分を記載例として記載すること）

<説明>

### ○発災を想定する号機

シナリオ非開示訓練のため非公開

### ○EAL判断

シナリオ非開示訓練のため非公開

### ○場面設定等

- ・時間 :
  - ・場所 :
  - ・気象 :
  - ・体制 :
  - ・資機材 :
  - ・計器故障 :
  - ・人為的ミス :
  - ・OFC対応 :
  - ・判断分岐 :
  - ・その他 :
  - :
- シナリオ非開示訓練のため非公開

## ● 指標7：現場実動訓練の実施〔D〕

- 現場実動訓練の実施内容
- 事故シナリオに基づき実施する緊急時対策所の活動との連携に係る説明
- 他原子力事業者評価者の受け入れ予定

<説明>

### ○現場実動訓練の実施内容

実施日：2019年11月29日（金）（10月28日（月）計画書説明済み）

内容：3号機（未適合炉）において全交流電源喪失（燃料プール注水・冷却機能の喪失）事象が発生したことを想定し、緊急時対策所と中央制御室、現場が連携して、緊急安全対策により配備した災害対策用発電機のケーブル布設及び起動を実動で実施し、現状の設備状態における燃料プールへの注水手段及び手順を確認した。

### ○事故シナリオに基づき実施する緊急時対策所の活動との連携に係る説明

本訓練は、社内全社防災訓練の事故シナリオと連動して実施し、発電所緊急事態対策本部（全体で415名（現場要員含む）参加）が戦略を検討し、中央制御室及び現場要員に災害対策用発電機のケーブル布設及び起動に係る指示を実施し、現場要員は、本部指示を基に現場での対応操作を実動で実施した。また、本店緊急事態対策本部（全体で152名参加）では、現場の活動状況を把握するとともに、模擬ERC役へプラント状況及び戦略に係る説明を実施した。

### ○他原子力事業者評価者の受け入れ実績

他原子力事業者（9名）及び浜岡原子力規制事務所 原子力防災・運転管理専門職（2名）を訓練評価者として受け入れた。

## ● 指標8：広報活動〔D〕

- 評価要素①～⑤それぞれについて、対応、参加等の予定についての説明

<説明>

### ①ERC広報班と連動したプレス対応

東京支社及び東京支社派遣Gより、ERC広報班リエゾンとして3名派遣し、ERC広報班と連動したプレス対応を実施予定。

### ②記者等の社外プレーヤーの参加

模擬記者として、契約情報のため非公開が参加する。

### ③他原子力事業者広報担当等の社外プレーヤーの参加

模擬記者として、東京電力HD株式会社の広報担当が参加する。

#### ④模擬記者会見の実施

訓練項目として模擬記者会見を実施する。

#### ⑤情報発信ツールを使った外部への情報発信

訓練項目として模擬ホームページへの掲載を実施する。

### ● 指標9：後方支援活動【D】

- 評価要素①～③それぞれについて、具体的活動予定（特に、実動で実施する範囲を明確にすること）についての説明
- 一部を要素訓練で実動し、残りを総合訓練で実動するなど、複数の訓練を組み合わせて一連の後方支援活動の訓練を実施する場合は、その説明

<説明>

#### ①原子力事業者間の支援活動

原子力事業者間協力協定に基づく支援要請（実連絡）を実施する。また東京電力 HD 株式会社及び北陸電力株式会社の技術者を当社へ派遣いただき、各本社の受け者との情報連絡を実施していただく。

#### ②原子力事業所災害対策支援拠点との連動

災害対策支援拠点候補地である島田営業所に本部を立上げ、通信機器を設置し、即応センターとの連携を実動で実施する。また要素訓練として、事態進展に備えた拠点内放射線測定やラジプローブの測定準備及び測定訓練を実施する。

なお、災害対策支援拠点の身体・車両スクリーニング及び除染設備の立上げ、運営に係る訓練については、2019年6月14日に災害対策支援拠点候補地である島田電力センター掛川分室にて実施した。また、出入管理、線量管理に係る機器の立上げ、運営に係る訓練については、2019年9月25日に本店会議室を模擬拠点と見立てて実施した。

#### ③原子力緊急事態支援組織との連動

即応センターから原子力緊急事態支援組織（美浜原子力緊急事態支援センター）への支援要請（実連絡）を実施する。

なお、2019年11月29日に実施した社内全社防災訓練時に原子力緊急事態支援組織（美浜原子力緊急事態支援センター）への支援要請（実連絡）を実施し、支援要請以降の活動については、要素訓練として2019年12月25日に浜岡原子力発電所へ1t、8t無線重機の受入れ及び操作訓練を実施済み。

## ● 指標10：訓練への視察など後方支援活動【A】

- ①他原子力事業者への視察
  - 他事業者への視察実績、視察計画
- ②自社訓練の視察受け入れ
  - 自社訓練の視察受け入れ計画（即応センター、緊対所それぞれの視察受入れ可能人数、募集締め切り日、募集担当者の氏名・連絡先）
- ③ピアレビュー等の受入れ
  - ピアレビュー等の受入れ計画（受入れ者の属性、レビュー内容等）
- ④他原子力事業者の現場実動訓練への視察
  - 視察又は評価者としての参加の実績、予定の説明

<説明>

### ①他事業者への視察実績、視察計画

以下の原子力事業者訓練（発電所、即応センター）を視察又は視察を予定している。

- ・東北電力（2019年11月22日）
- ・北陸電力（2019年12月20日、2020年1月27日予定）
- ・東京電力HD（2019年11月1日、2020年1月24日予定）
- ・関西電力（2019年12月13日）
- ・中国電力（2020年1月31日予定）
- ・四国電力（2019年11月18日）
- ・九州電力（2019年10月4日）

### ②自社訓練の視察受け入れ計画

<視察受入れ可能人数>

- ・電力会社

即応センター、緊急時対策所とともに各社1名程度の受入れを予定。

- ・核燃料視察等

即応センター、緊急時対策所とともに3名を上限に受入れを予定。

<募集締め切り日>

2020年2月7日（金）

<募集担当者>

個人情報のため非公開

### ③ピアレビュー等の受入れ計画

東京電力 HD 株式会社及び北陸電力株式会社により緊急時対策所及び即応センターの活動を評価いただく。

<緊急時対策所>

東京電力 HD 株式会社 1名

北陸電力株式会社 1名

<即応センター>

東京電力 HD 株式会社 1名

北陸電力株式会社 1名

### ④他原子力事業者の現場実動訓練への観察又は評価者としての参加の実績、予定

以下の他原子力事業者の現場実動訓練へ参加した。

- ・柏崎刈羽原子力発電所（2019年9月5日に評価者として参加）
- ・志賀原子力発電所（2019年11月20日に評価者として参加）
- ・東通原子力発電所（2019年11月22日に評価者として参加）
- ・福島第一原子力発電所（2020年1月15日に評価者として参加）

#### ● 指標 1.1：訓練結果の自己評価・分析

—

#### ● 備考：訓練参加率

- 発電所参加予定人数（うち、コントローラ人数）
- 即応センター参加予定人数（うち、コントローラ人数）
- リエゾン予定人数
- 評価者予定人数

<説明>

##### ○発電所参加予定人数

約 350 名（うち、コントローラ・評価者 約 40 名）

##### ○即応センター参加予定人数（うち、コントローラ人数）

約 150 名（うち、コントローラ・評価者 約 25 名）

##### ○リエゾン予定人数

約 9 名（うち、コントローラ・評価者 1 名）

## ● 備考：中長期計画の見直し

- 見直し状況、見直し内容、令和元年度訓練実施計画の位置づけの説明
  - 見直し後の中期計画を提出すること
  - 前回（平成 30 年度）訓練の訓練報告書提出以降から次年度（令和 2 年度）訓練までの対応実績・スケジュール（作業フローなど）について、以下の P D C A の観点で概要を示すこと
- 【観点】前回訓練の訓練報告書提出から今回訓練までと今回の訓練を踏ました
- [C] 及び [A]、中期計画及び原子力防災業務計画への反映 [P] の時期
  - [C] 訓練報告書のとりまとめ時期
  - [A] 対策を講じる時期
    - －具体的な対策の検討、マニュアル等へ反映、周知・教育/訓練など  
(平成 30 年度の訓練実施結果報告書に掲げた各課題についての対応内容、スケジュールがわかるように記載すること)
    - －原子力事業者防災業務計画への反映の検討事項・時期（定期見直し含む）
  - [P] 中期計画等の見直し事項・時期、次年度訓練計画立案時期
- 平成 30 年度訓練実施後の面談時に説明した PDCA 計画を再度参考添付すること

＜資料＞

- 2019 年度総合訓練に係る対応スケジュール    別紙 4 参照

## ● 備考：シナリオ非開示型訓練の実施状況

- 開示する範囲、程度（一部開示の場合、誰に／何を開示するのか具体的に記載）  
及びその設定理由に係る説明

＜説明＞

- コントローラ・評価者以外はシナリオ非開示とする。

## ● 事業者と ERC の訓練コントローラ間の調整事項

- ERC 広報班との連動の有無
- TV 会議接続先（即応センター、OFC、緊対所）
- リエゾンの人数（プラント・広報）、入館時刻、訓練参加タイミング
- 訓練終了のタイミング、その後の振り返りの要否
- ERSS 使用に係る当庁情報システム室との調整状況
- 事前通信確認実施の要否
- 即応センターコントローラの所属、氏名、連絡先
- ERC 対応者の職位、氏名
- 訓練時、メールを利用した ERC プラント班への資料提供の実施の有無

<説明>

○ERC 広報班との連動の有無

ERC 広報班リエゾンは 3 名参加を予定しているが、ERC 広報班との連動はあるか、確認させていただきたい。

○ERC 医療班との連動の有無

ERC 医療班への情報共有は連動して実施するか、確認させていただきたい。

○TV 会議接続先（即応センター、OFC、緊急時対策所）

統合原子力防災ネットワークの TV 会議接続先は、「中部即応センター1」を通常接続、「中部即応センター2」を画面非表示、傍聴接続させていただきたい。

（「中部即応センター2」は他原子力事業者の視察者・評価者用に用意する会議室で ERC 対応を放映するため、接続をお願いしたい。）

○リエゾンの人数（プラント・広報）、入館時刻、訓練参加タイミング

ERC プラント班リエゾン 5 名、ERC 広報班リエゾン 3 名、ERC リエゾンコントローラ兼評価者 1 名の参加を予定している。入館時刻は 13:00、訓練参加タイミングは 13:40（シナリオ非開示訓練のため非公開）とする。

○訓練終了のタイミング、その後の振り返りの要否

訓練の進捗に合わせて、即応センターコントローラが、ERC コントローラと調整の上、統合原子力防災ネットワークの TV 会議を通じて訓練終了の発話をを行う。その後、ERC との訓練の振り返りをお願いしたい。

○ERSS 使用に係る当庁情報システム室との調整状況

ERSS を使用しないため、調整は不要である。

○事前通信確認実施の要否

実施を希望するため、改めて日程調整させていただきたい。

○即応センターコントローラの所属、氏名、連絡先

個人情報のため非公開

○ERC 対応者の職位、氏名

個人情報のため非公開

○訓練時、メールを利用した ERC プラント班への資料提供の実施の有無

予定していない。

以上

別紙1-1

2019年度 浜岡原子力発電所  
総合訓練 実施計画書

2020年2月

中部電力株式会社

## 1. 中長期訓練計画上の位置付け

「訓練中長期計画」における 2019 年度の達成目標は、『4 号機運転、他号機停止状態での複数号機同時被災時に対応できる仕組みの有効性の検証』と定めているため、これが検証できる訓練計画とする。

## 2. 昨年度訓練の課題・改善事項

組織の対応力強化として、昨年度の訓練で抽出された課題の改善事項に対する取り組みの有効性が検証できる訓練計画とする。具体的な実施内容は、別紙 3 参照。

## 3. 訓練目的

「訓練中長期計画」及び昨年度訓練の課題・改善事項を踏まえ、2019 年度は以下に示す点を主眼において訓練を実施することで、緊急時対応組織の総合的な対応能力強化を図る。

実施箇所	訓練目的
発電所	<p>① 4 号機運転、他号機停止状態での複数号機同時発災時に対応できる仕組みの有効性を検証する。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>－戦略ブリーフィング時に COP<sup>*1</sup> を活用し、号機別に情報整理が実施できていること。</li><li>－本部席の対応体制として、プラント担当を運転号機と停止号機で分け、EAL 判断及び戦略検討に係る対応を実施できていること。</li></ul> <p>② プラント戦略及び進展予測等を遅滞なく即応センターと情報共有し、連携が実施できることを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>－COP や WebEOC<sup>*2</sup> 等の情報共有ツールを活用して情報共有できること。</li></ul> <p>③ 4 号炉心損傷回避戦略を検討し、決定／実行できることを確認する。</p> <p>④ 昨年度の訓練で抽出された課題、その他改善事項に対する取り組みの有効性を検証する。</p>
原子力部 (本店)	<p>① 4 号機運転、他号機停止状態での複数号機同時発災時に対応できる仕組みの有効性を検証する。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>－ERC への情報提供時に、停止号機用の COP 活用できること。</li><li>－複数号機発災時における ERC との情報連携体制の強化を目的として設置した、号機別のスピーカーレク担当の有効性を検証する。</li></ul> <p>② 平日昼間を想定した初動対応、要員参集後の本部運営を実施できること。</p> <p>③ 基本的な活動として整備した運用を実施できること。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>－ERC への情報提供に必要な情報を取得・整理し遅滞なく提供できること。</li><li>－ERC への情報提供の際に、COP、ERC 配備資料や ERC に派遣した当社のリエゾンを活用し、積極的に情報を提供できること。</li><li>－10 条確認会議、15 条認定会議の際に、必要な情報を取得・整理し、遅滞なく提供できること（発生事象、判断時刻、事象進展の予測、事故収束対応等）。</li></ul>

	④昨年度の訓練で抽出された課題、その他改善事項に対する取り組みの有効性を検証する。
--	---

※1 Common Operational Picture : 共通状況認識図

※2 Web Emergency Operations Center : 緊急時情報共有化システム

#### 4. 訓練日時

2020年2月28日（金）13:05～16:30

訓練終了後、振り返り会実施。

#### 5. 想定事象、訓練内容

##### (1) プラント運転状態

1号機：廃止措置中（使用済燃料・新燃料搬出済み）

2号機：廃止措置中（使用済燃料・新燃料搬出済み）

3号機：停止中（新規制基準適合性申請に係る審査が完了しておらず、燃料集合体は全て使用済燃料プールで保管）

4号機：運転中（新規制基準適合性申請に係る対策工事及び可搬型設備の導入が全て完了した状態）

5号機：停止中（新規制基準適合性申請に係る審査が完了しておらず、燃料集合体は全て使用済燃料プールで保管）

##### (2) 事象想定

シナリオ非開示訓練のため非公開

詳細な事象想定については、

別紙1－2－1参照。

##### (3) スキップの有無等

事象の早回し、事象のスキップは実施しない。

##### (4) 安全パラメータ伝送システム（以下、SPDSという。）の使用

###### ○発電所－即応センター間のSPDS

浜岡4号機は訓練シミュレータと連動した訓練を実施するため、当該訓練シミュレータから出力されたSPDSデータを用いて訓練を行う。

SPDSデータには、実機の中央制御室からの信号と訓練シミュレータからの信号の2系統があり、平時は実機のSPDSデータが緊急時対策所及び即応センターに表示されるように設定しているが、訓練時は訓練シミュレータのSPDSデータが表示されるように切替えを行うことで対応する。

#### ○即応センター—ERC 間の SPDS

ERC リエゾンが ERC に持ち込む PC を通じて、即応センターから ERC へ訓練シミュレータの SPDS 画面を伝送表示する。

原子力規制庁から ERC 対応ブース発話者又は ERC リエゾンへ要求があれば、ERC 対応ブースの要員が SPDS 表示端末を操作することで伝送表示している画面を切り替えることが可能である。

#### ○実発災時とシステムの差異

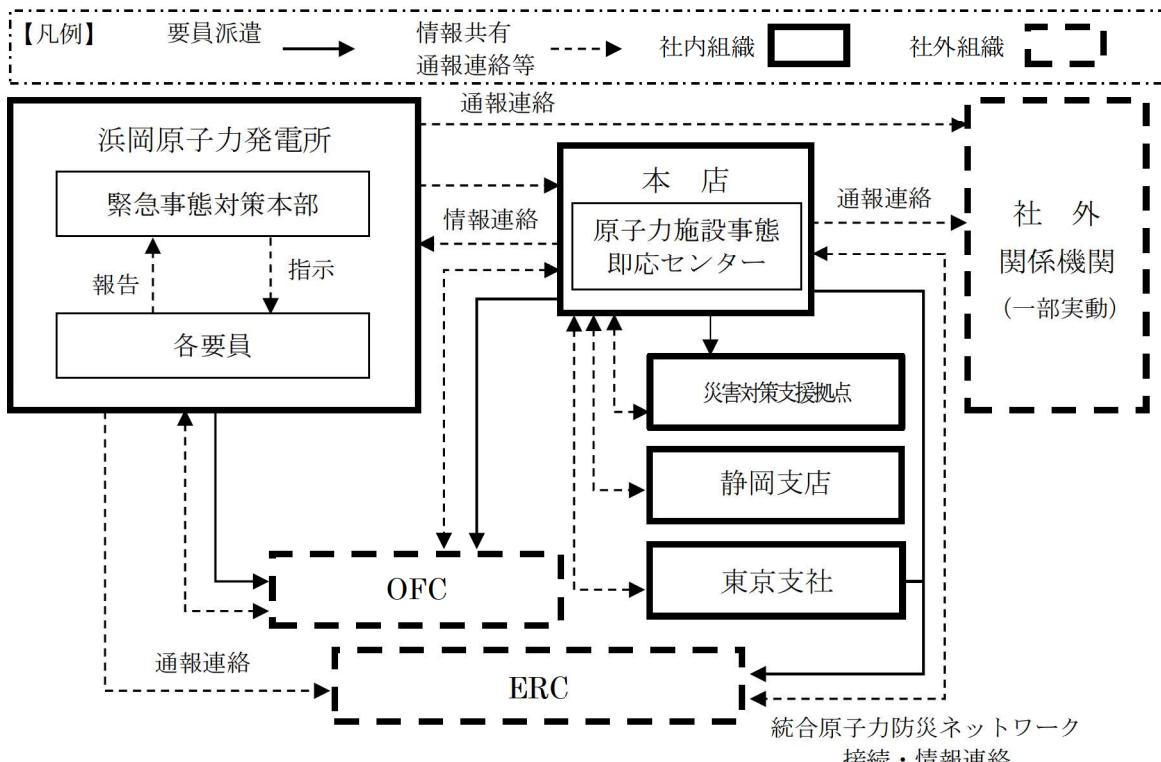
緊急時対策支援システム（以下、ERSS という。）表示端末の導入は検討中のため、実発災時における ERC への情報共有は、発電所から伝送している ERSS データに加え、上述の対応により SPDS データを伝送表示する。

### 6. 訓練項目

実施箇所	訓練項目	訓練概要
発電所	重大事故等対応訓練	添付資料 1 参照
	通報訓練	
	避難誘導訓練	
	原子力災害医療訓練	
	モニタリング訓練	
原子力部 (本店)	本部運営訓練	添付資料 1 参照
	原子力事業所災害対策支援拠点訓練	
	原子力緊急事態支援組織連携訓練	
	記者会見対応訓練	
	原子力事業者支援連携訓練	

## 7. 訓練実施体制・レイアウト

### (1) 実施体制



### (2) 即応センターレイアウト図

別紙1-5参照

### (3) 発電所緊急時対策所レイアウト図

別紙1-6参照

### (4) ERC 対応ブース配席図、役割分担

別紙1-7参照

## 8. 評価方法

### (1) 訓練観察による評価

訓練評価チェックシートを用いて訓練観察を実施し、訓練後に活動を評価する。

### (2) 第三者による評価

他の原子力事業者に評価者の派遣を依頼し、活動を第三者視点で評価する。

### (3) 振り返り会

訓練参加者及び訓練事務局にて振り返り会を実施し、改善事項を抽出する。

## 9. 訓練の中止・延期等の判断

以下の条件を基に訓練事務局で訓練の中止又は延期を検討し、本店本部長又は発電所本部長の最終判断を持って中止又は延期する。

- (1) 当社供給区域内で大規模な自然災害（地震、津波、暴風、竜巻、火山の噴火など）の発生又はそのおそれがある場合で、社内の緊急時体制を構築する必要があるとき。
- (2) 原子力発電所のトラブルにより、対策会議を構築する必要があるとき。
- (3) 訓練中に人身災害が発生したとき。
- (4) その他、訓練事務局が必要と判断したとき。

以上

## 1. 発電所各訓練項目の内容

訓練項目	訓練内容	達成目標	主たる検証項目
重大事故等対応訓練	<p>○4号機運転、他号機停止状態での複数号機同時発災シナリオへの対応</p> <p>○即応センターとの情報共有及び連携</p> <p>○4号機重大事故等事象シナリオへの対応</p>	<p>○4号機運転、他号機停止状態での複数号機同時発災時に対応できること</p> <p>○プラント戦略及び進展予測等を遅滞なく即応センターと情報共有し、連携が実施できること</p> <p>○4号炉心損傷回避戦略を検討し、決定／実行できること</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦略ブリーフィング時に COP を活用していることを確認する</li> <li>・本部席の対応体制として、プラント担当を運転号機と停止号機で分け、対応できていること</li> <li>・COP や WebEOC 等の情報共有ツールを活用し、遅滞なく情報共有できること</li> <li>・炉心損傷回避戦略を具体的に検討し、決定後、実行を指示できることを確認する</li> </ul>
通報訓練	○原災法第 10 条通報文の作成、状況に応じた通信手段を用いた通報連絡（FAX 送信及び着信確認）	○原災法第 10 条、第 15 条該当判断から 15 分以内に通報文の作成、関係箇所への着信確認が実施できること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・15 分以内に FAX 送信及び着信確認が実施できることを確認する</li> </ul>
避難誘導訓練	○原災法第 10 条事象発生後、発電所敷地内からの避難者への避難指示、避難誘導	○避難指示及び避難誘導を遅滞なく実施できることを確認する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難指示及び避難誘導を遅滞なく実施できることを確認する</li> </ul>
原子力災害医療訓練	○管理区域から傷病者の搬出、汚染検査、応急処置	○管理区域内で発生したけが人の汚染状況の把握、処置及び医療機関への搬送ができること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理区域内で発生したけが人の汚染状況の把握、処置及び医療機関への搬送ができることを確認する</li> </ul>
モニタリング訓練	○可搬型モニタリングポスト設置、測定	○可搬型モニタリングポストを設置し、所内モニタリングが実施できること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・可搬型モニタリングポストを設置し、所内モニタリングが実施できることを確認する</li> </ul>

## 2. 原子力部（本店）各訓練項目の内容

訓練項目	訓練内容	達成目標	主たる検証項目
本部運営訓練	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事象発生後、遅滞なく本部を立ち上げ、発電所支援ができる体制の構築</li> <li>○必要な連絡先に事象発生の連絡ができること</li> <li>○OFCへの要員の派遣及び到着後、即応センターとの連携体制の構築</li> <li>○ERCプラント班へ情報提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本部を遅滞なく立ち上げができること</li> <li>○必要な連絡先に事象発生の連絡ができることを確認する</li> <li>・統合原子力防災ネットワーク TV会議システムからの接続要求に応答できることを確認する</li> <li>・必要な連絡先に事象発生の連絡が実施できることを確認する</li> <li>○資機材を立ち上げ、即応センターと連携できること</li> <li>・初動活動のチェックリストに従い、通信機器（TV会議システム、モバイルPC）を支障なく設営できることを確認する</li> <li>○ERCプラント班に対して、情報共有システム、COP、ホットライン等の活用によりEAL、プラント状況、対応戦略等の必要な情報をわかりやすく適宜報告できること</li> <li>○ERCプラント班からの質問に対して、発電所又は即応センター内から情報を集め、回答できること</li> <li>○ERC対応ベース内の通信機器の操作が適切に実施できること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社内規定に従い、体制発令・要員招集が実施できることを確認する</li> <li>・社内TV会議システムへの接続ができることを確認する</li> <li>・必要な連絡先に事象発生の連絡が実施できることを確認する</li> <li>・即応センターERC対応者がERCプラント班へ提供すべき情報を情報共有システム、COP、ホットライン等を活用し入手できることを確認する</li> <li>・情報を入手し、情報を整理できることを確認する</li> <li>・ERCプラント班からの質問を管理できていることを確認する。また、ERCプラント班へ回答できることを確認する</li> <li>・通信機器（TV会議システム、書画装置、訓練シミュレータ画面）の操作が遅延なく実施できることを確認する</li> <li>・音声不調が発生した場合、必要な対応が実施できることを確認する</li> </ul>
原子力事業所災害対策支援拠点訓練	<ul style="list-style-type: none"> <li>○支援拠点を立ち上げ、即応センターと情報共有</li> <li>○支援拠点内に、放射線測定機器の準備及び測定を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○支援拠点を立ち上げ、即応センターと連携できること</li> <li>○マニュアルに従い、放射線測定機器の準備及び測定が実施できること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役割標準シートに従い、支援拠点に通信機器を設置し、即応センター、その他拠点との連絡体制を確立できることを確認する</li> <li>・支援拠点に設営した通信機器により即応センターからの情報を収集・整理できることを確認する</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・役割標準シートに従い、放射線測定機器の準備及び測定が実施できることを確認する</li> </ul>

訓練項目	訓練内容	達成目標	主たる検証項目
原子力緊急事態支援組織連携訓練	○原子力緊急事態支援組織（美浜原子力支援センター）への通報連絡及び支援要請を実施	○原子力緊急事態支援組織（美浜原子力支援センター）への通報連絡及び支援要請を実施できること	・役割標準シートに従い、原子力緊急事態支援組織（美浜原子力支援センター）への通報連絡及び支援要請を実施できることを確認する
記者会見対応訓練	○模擬記者会見の実施  ○ERC広報班と連動したプレス対応の実施	○模擬記者会見（わかりやすい広報対応含む）を実施できること  ○ERC広報班と連動したプレス対応を実施できること	・記者役に対して、わかりやすい広報対応が実施できることを確認する ・記者からの質問に対して回答できることを確認する ・ERC広報班と連動したプレス対応が実施できることを確認する
原子力事業者支援連携訓練	○模擬ホームページによる情報発信の実施  ○他の原子力事業者と連携し、発電所の支援を実施	○模擬ホームページによる情報発信が実施できること  ○「事業者間協定」に基づく支援要請を実施できることと ○発電所支援の備えについて、他の原子力事業者との連携が実施できること	・模擬ホームページに必要なプレス情報を登録できることを確認する ・「事業者間協力協定」に基づき、支援要請を実施できていることを確認する。 ・また、発電所支援の備えについて、他の原子力事業者との連携が実施できることを確認する

2019年度総合訓練 剣練シナリオ			プラント		
実時間	発生事象	通報経路	3号機(旧基準炉)	4号機:新基準炉(安全性向上対策工事がすべて完了)	5号機(旧基準炉)
平日基調停	1. 2号機(発止措置中) 前提運用: 安定停止維持 275kV,500A / 外部電源あり	前提運用: MUWCR-ンブ全停中、訓練期間内で復旧有り(15時) PHRA(A)点検中 非常用消火ポンプ(A)点検中 脱燃水セイゴ(A)点検中 燃料ボルダーON、ウェル水抜き中	前提運用: 外部電源有 D/G(A):○ D/G(B):○ D/G(H):× RH付帯ブ(B)サーべンス中(13:00～)	前提運用: 安定停止維持 D/G(A):○ D/G(B):○ D/G(H):○	前提運用: 安定停止維持 D/G(A):× D/G(B):○

シナリオ非開示訓練のため非公開

2019年度総合訓練 訓練の流れ

## 現状のプラント状態を踏まえた訓練の実施方針

### 1. 訓練の位置付け

2019年度総合訓練では現在の設備状態における3号機でのEAL該当訓練を計画しているが、訓練目的である4号重大事故等対応の確認、訓練時間軸の関係上、警戒事態までの想定となる。

よって、総合訓練で検証できない特定事象以降の対応については、別途特定事象に該当したとの想定下におけるEAL判断を中心とした対応確認訓練を実施する。

### 2. 訓練目的

現在の設備状態において、特定事象に至る事象に対して、確実なEAL判断が実施できるように訓練を実施する。

### 3. 実施年月

2020年3月

### 4. 訓練内容

特定事象に該当したとの想定下におけるEAL判断を中心とした対応確認訓練を実施する事とし、通報連絡、COP発行等についても実施事項の確認を行う。

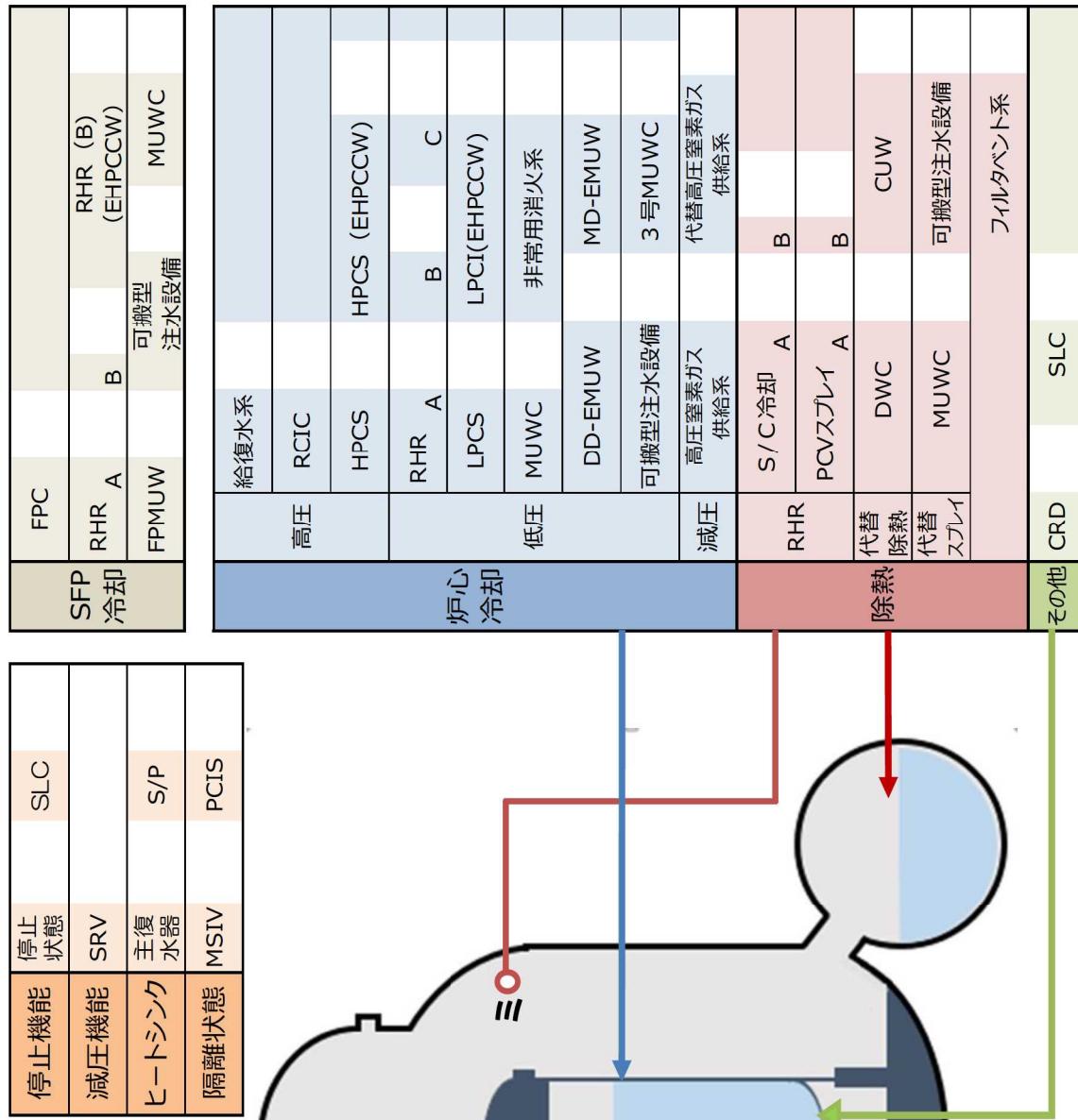
### 5. 実施体制

発電所、原子力部（本店）、模擬ERCと連動した体制とする。

以上

## 浜岡原子力発電所 4号機 機能別状況シート (COP 1)

## 現在



○ : 運転中	▲ : 準備中
△ : 待機中	■ : サポート系故障
■ : 備品中	× : 使用不可

# 適合炉用

**4号炉**

**COP2 : 設備状況シート**



## 浜岡原子力発電所 4号機 設備状況シート

## 浜岡原子力発電所 4号機 設備状況シート (COP2)

D B A 設備			
機能	設備	使用可否	備考
交流電源	外部電源 500kV		
	275kV		
	A		
D/G	B		
	H		
	A		
直流電源	蓄電池		
	H		
	A		
炉心冷却	給水系		
	RCIC		
	HPCS		
高圧系	RHR (LPCI )	A	
	B		
	C		
低圧系	LPCS		
	3号MUWC		
	SRV		
減圧系	R H R (S/C冷却)	A	
	R H R (格納容器スプレイ)	B	
	DWC		
格納容器冷却	CUW		
	RCCW	A	
	B		
原子炉補機冷却	RCWS	A	
	B		
	HPCCW		
SFP冷却	HPCW		
	FPC		
	RHR (SFP注水)	A	
その他	CRD	B	
	SLC		

S A・自主設備			
機能	設備	使用可否	着手時刻 完了予定時刻 (実績)
交流電源	GTG 交流電源車		
	号機間融通		
	直流電源車		
	充電池	SA	
	高圧系	HPCS (EHPCCW)	
		LPCI(EHPCCW)	
		MUWC	
	非常用消火系		
	DD-EMUW		
	MD-EMUW		
	3号MUWC		
	可搬型注水設備		
	高压窒素ガス供給系		
	代蓄高压窒素ガス供給系		
	MUWC		
	可搬型注水設備		
	代蓄熱交換器設備		
	フィルタベント系		
	EHPCCW		
	EWS		
	原子炉補機冷却		
	FPMUW		
	MUWC		
	RHR(B) (EHPCCW)		
	可搬型注水設備		
	自由記述欄		

使用可否：  
 ○：運転中  
 S : 待機中  
 ■ : 確認中  
 ▲ : 緊急中  
 × : サボート系故障  
 × : 使用不可

対策名  
 SRV : 制御可能開閉不能開閉着・漏えい  
 D B A 設備復旧

現在

## 浜岡原子力発電所 4号機 重大な局面シート (COP3) 炉心損傷防止／格納容器破損防止

## 4号機 [進展予測評価時点]

## [進展予測評価時点]

事象進展 関連 E AL	注水停止 [GE22]	T A F [SE42]	炉心損傷 [GE28]	サブレッシュボール 平均水温100°C [GE23]	格納容器圧力 (1psi) 0 [GE23 (SE43)]	格納容器限界圧力 (2Pd) スプレイ有り / スプレイ無し
(到達予想)				除熱停止から 後	除熱停止から 後	除熱停止から 後
(実績)						

## (1) 原子炉注水

- ① [ ] → 準備完了(予定) :  
 ② [ ] → 準備完了(予定) :  
 ③ [ ] → 準備完了(予定) :

## (2) 格納容器冷却 (スプレイ)

- ① [ ] → 準備完了(予定) :  
 ② [ ] → 準備完了(予定) :  
 ③ [ ] → 準備完了(予定) :

## (3) 格納容器除熱 (最終ヒートシンク確保)

- ① [ ] → 準備完了(予定) :  
 ② [ ] → 準備完了(予定) :  
 ③ [ ] → 準備完了(予定) :

## (4) その他

- ペデスタル  
ブル  
ワール  
準備完了(予定) :  
 準備完了(予定) :  
 準備完了(予定) :  
 準備完了(予定) :

×モ

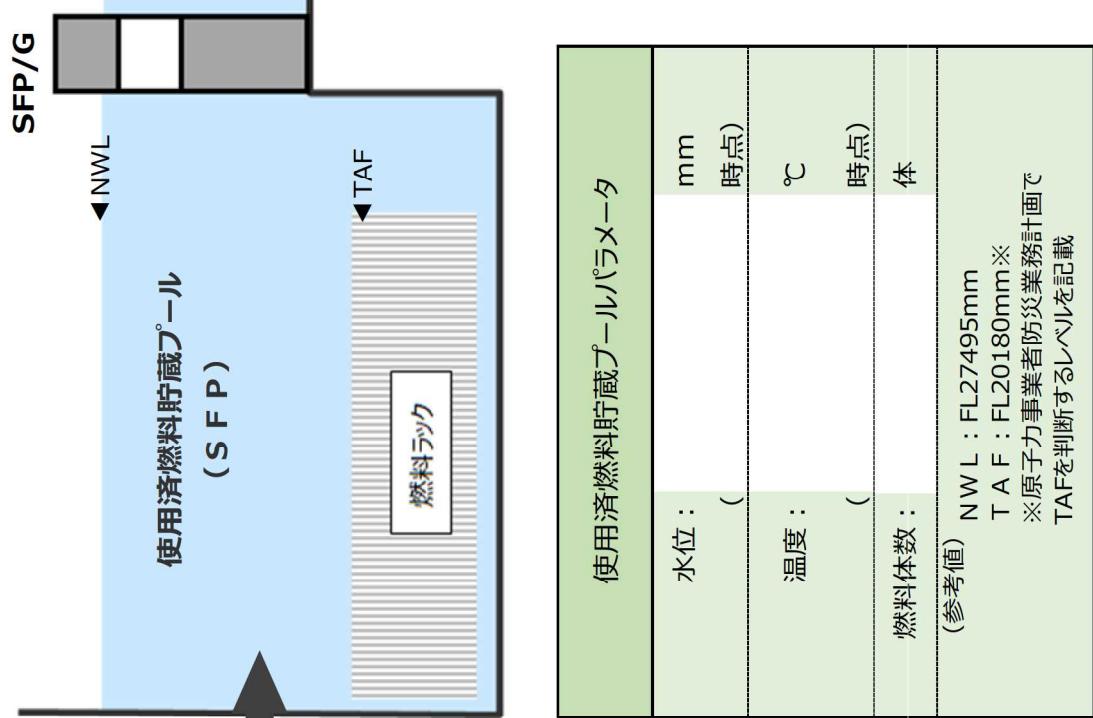
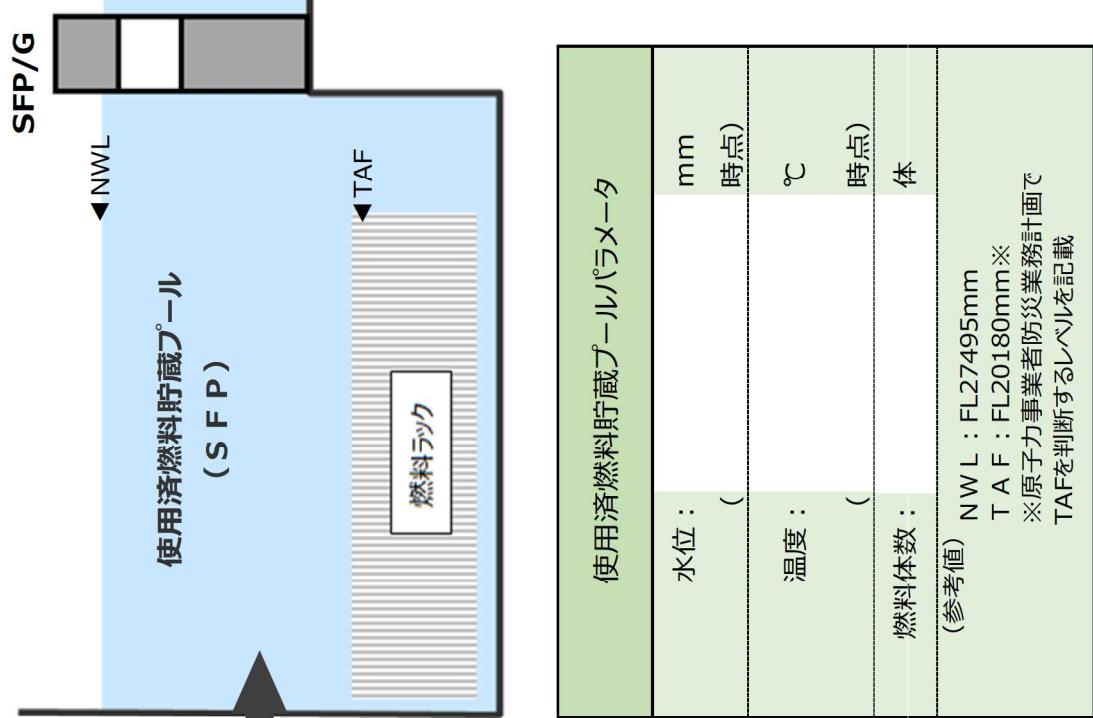
【戦略の優先順位の考え方】  
 原子炉圧力容器健全時 (1. 炉心冷却 2. 格納容器機能維持)  
 原子炉圧力容器破損後 (1. 格納容器破損後 2. 炉心冷却)

## 浜岡原子力発電所 3号機 機能別状況シート (COP1)

現在

原子炉の状態	R P V ヘッド ウエル水位 燃料装荷状態	F P MUW M UW C R H R A 非常用消火 可搬式動力ポンプ	F P C R H R A	RCCW RCWS 補機	500kV M/C (E) D/G (A)
					275kV M/C (F) D/G (B)
					M/C (H) D/G (H)
					災害対策用発電機 号機間融通

原子炉の状態		F P MUW M UW C R H R A 非常用消火 可搬式動力ポンプ		F P C R H R A		RCCW RCWS 補機		500kV M/C (E) D/G (A)		275kV M/C (F) D/G (B)		M/C (H) D/G (H)		災害対策用発電機 号機間融通	
R P V ヘッド ウエル水位 燃料装荷状態		F P MUW M UW C R H R A 非常用消火 可搬式動力ポンプ		F P C R H R A		RCCW RCWS 補機		500kV M/C (E) D/G (A)		275kV M/C (F) D/G (B)		M/C (H) D/G (H)		災害対策用発電機 号機間融通	



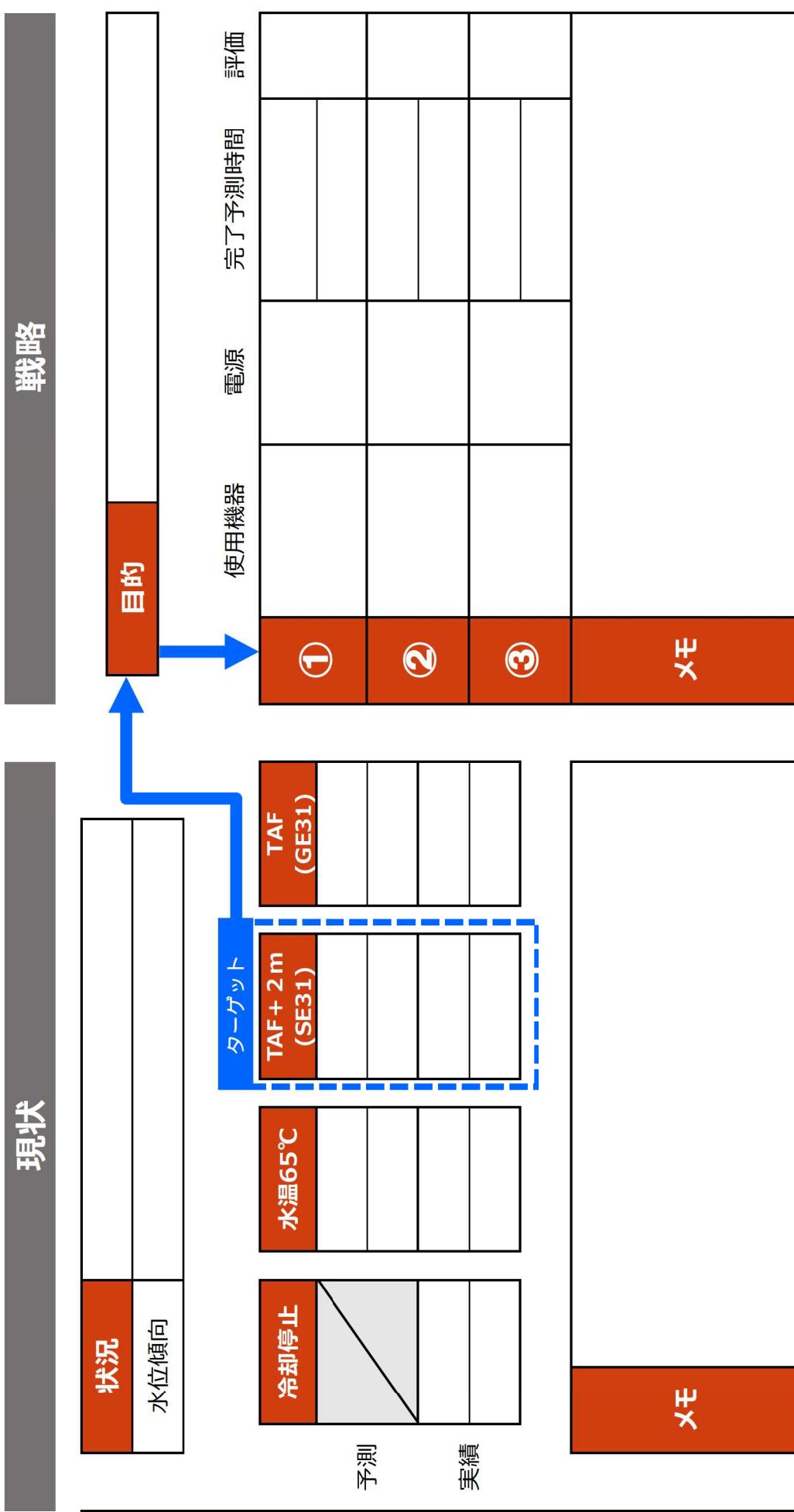
凡例

- ：運転中
- △：準備中
- ：サポート系故障
- ：使用不可

NWL : FL27495mm  
TAF : FL20180mm※  
※原子力事業者防災業務計画で  
TAFを判断するレベルを記載

## 浜岡原子力発電所 3号機 重大な局面シート (COP 3)

現在



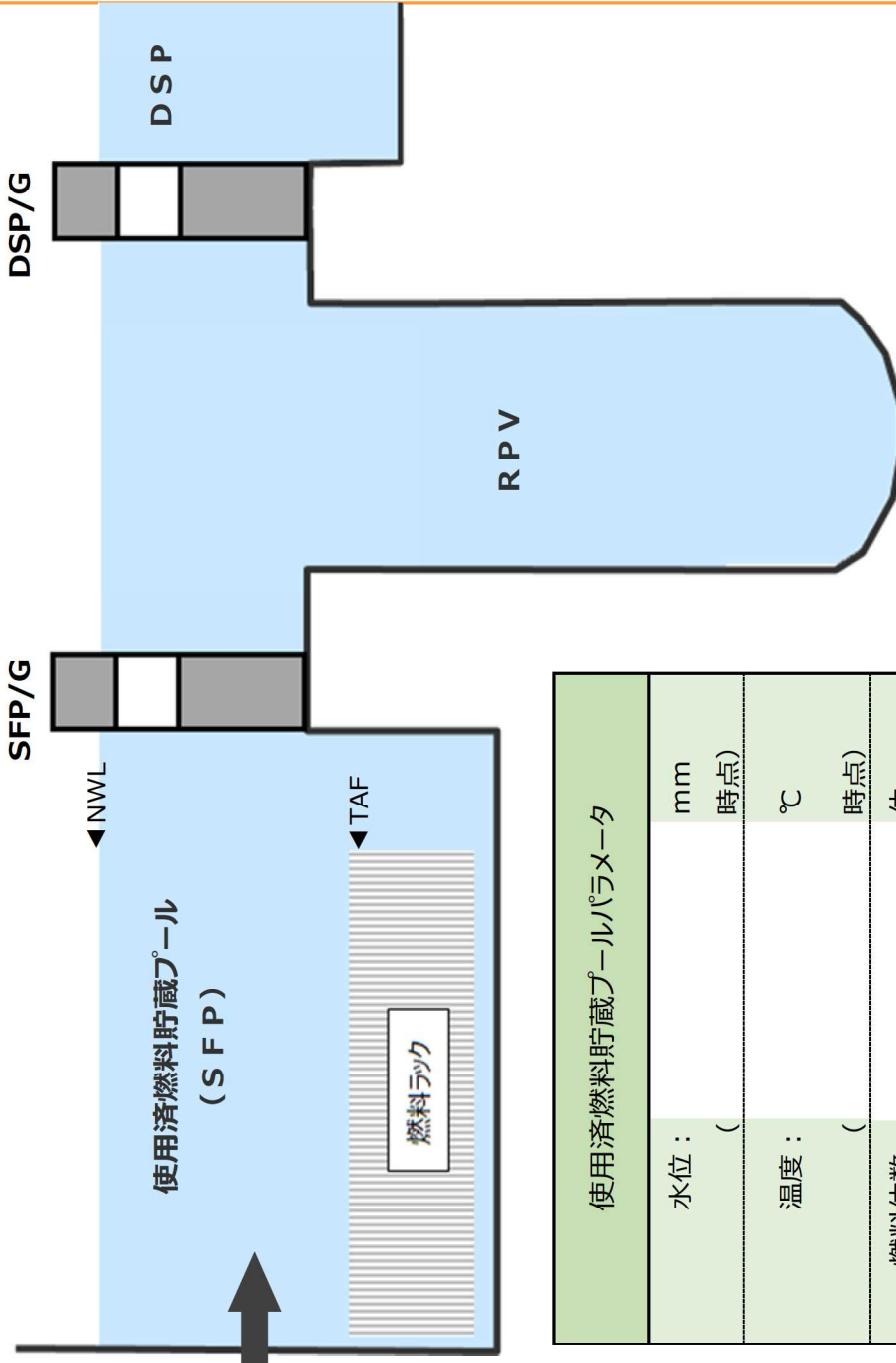
使用済燃料貯蔵プール

## 浜岡原子力発電所 5号機 機能別状況シート (COP1)

## 現在

原子炉の状態	R P V ヘッド ウエル水位 燃料装荷状態	S P C U M U W C R H R A B C 消火用水 可搬式動力ポンプ	F P C R H R A B C	R C C V R C W S A B C	500kV M/C (E) D/G (A)
					M/C (F) D/G (B)
					M/C (G) D/G (C)
					災害対策用発電機
					号機間融通

使用済燃料貯蔵プール (S F P)			使用済燃料貯蔵プールバーメータ		
NWL	TAF	燃料ラック	水位 :	mm ( 時点 )	時点
			温度 :	℃ ( 時点 )	体



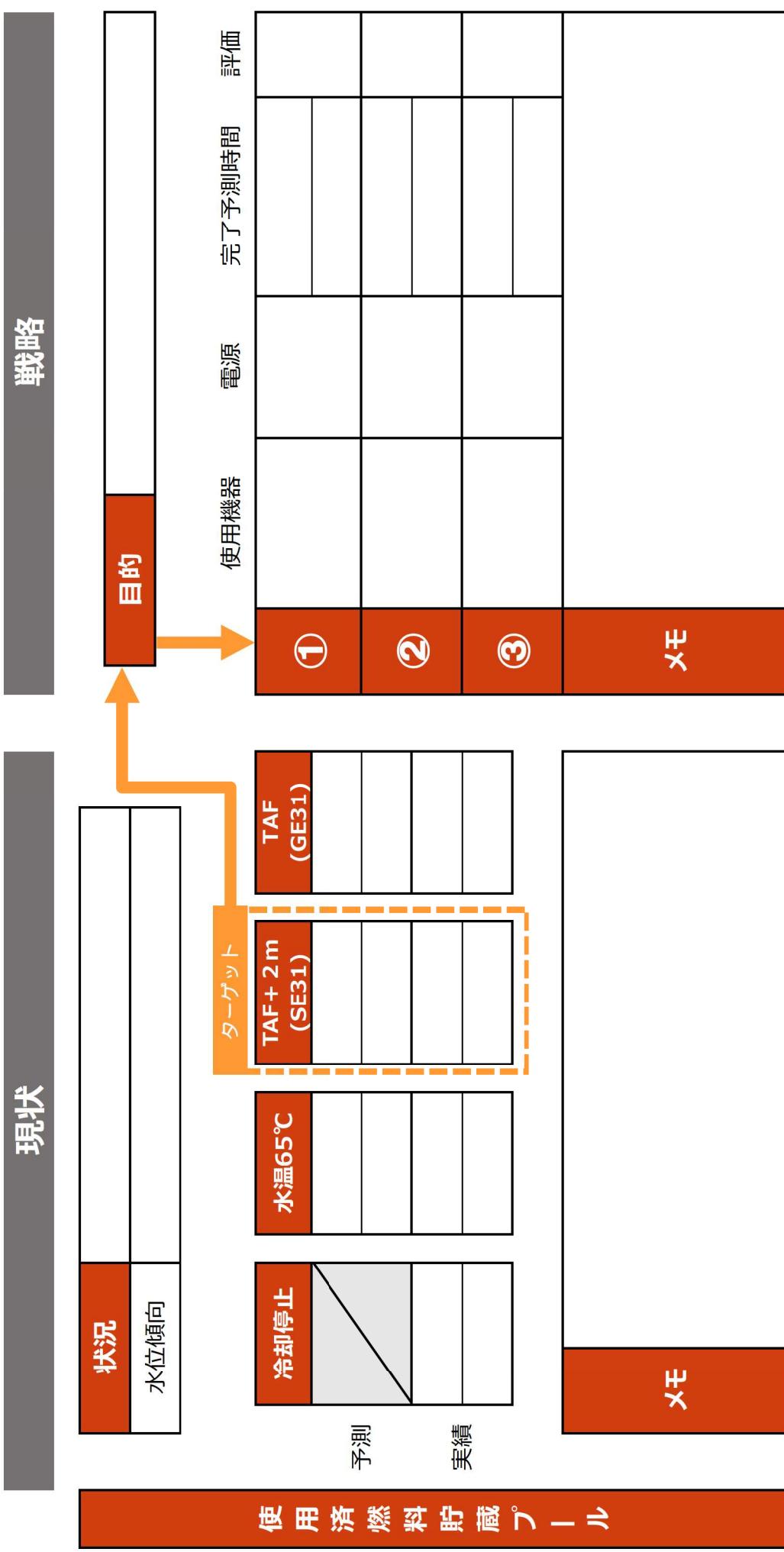
凡例

- : 運転中
- △ : 準備中
- : 待機中
- : 確認中
- ×
- △ : サポート系故障
- × : 使用不可

※原子力事業者防災業務計画で  
TAFを判断するレベルを記載

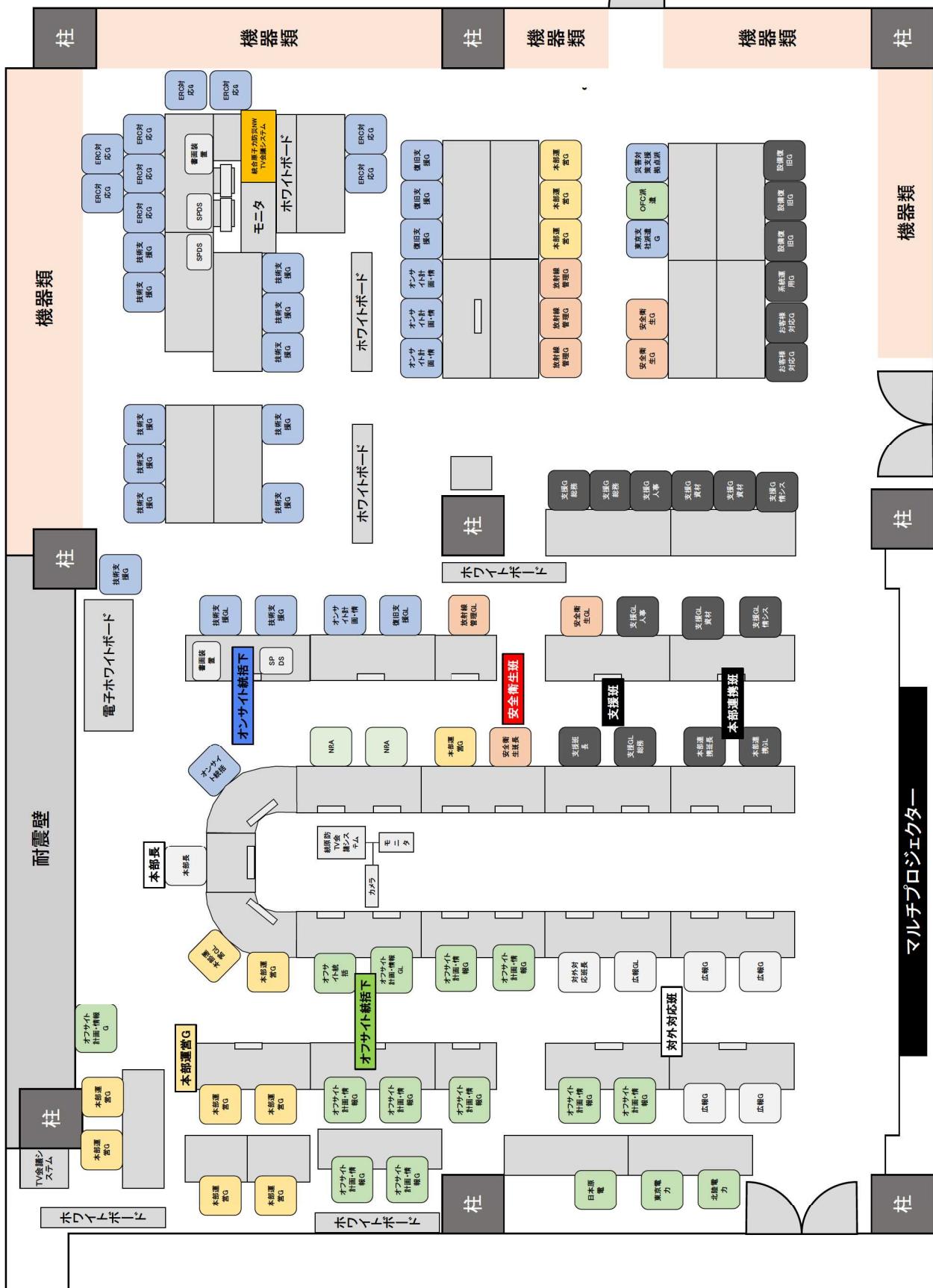
## 浜岡原子力発電所 5号機 重大な局面シート (COP3)

現在

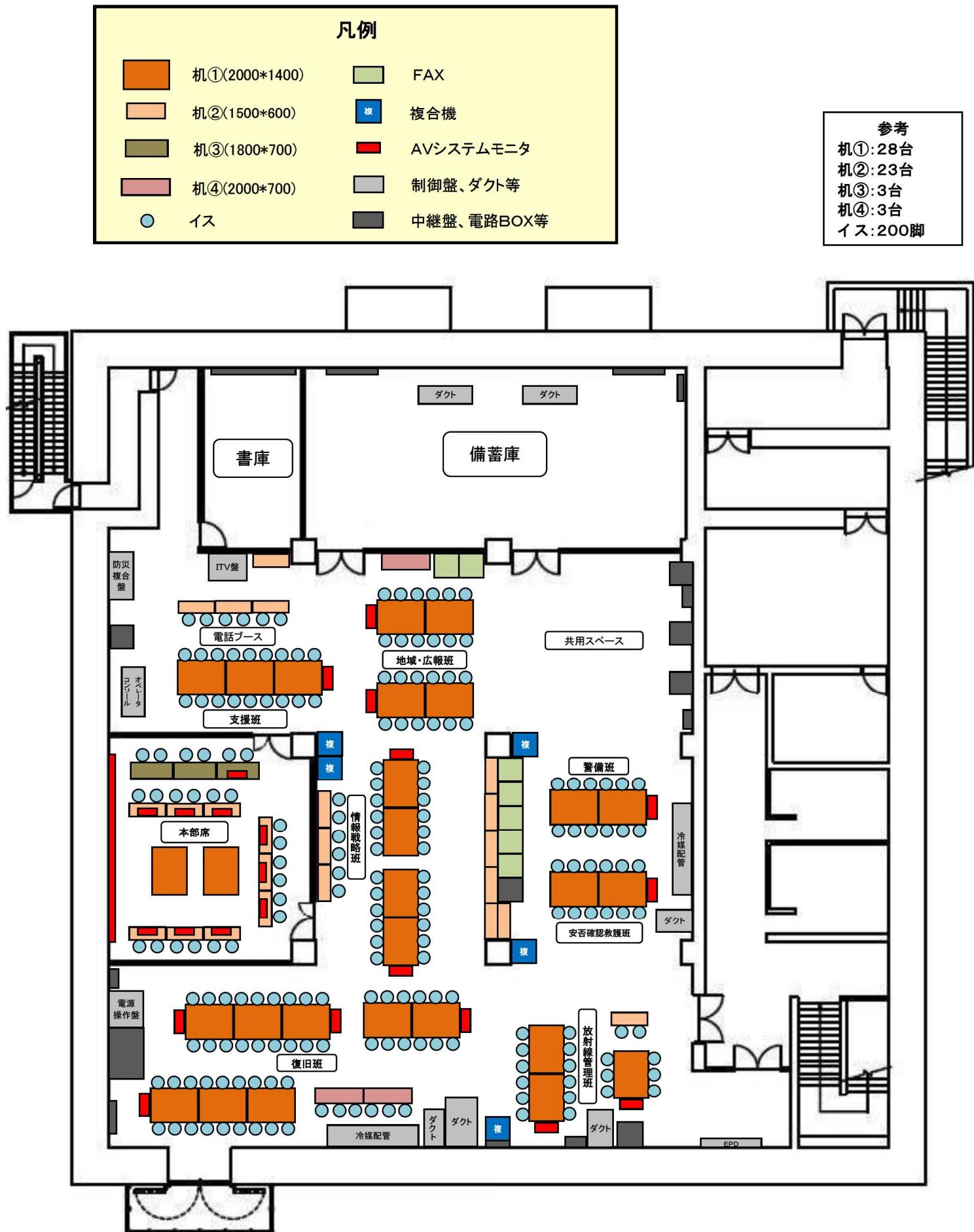


即応センターレイアウト図

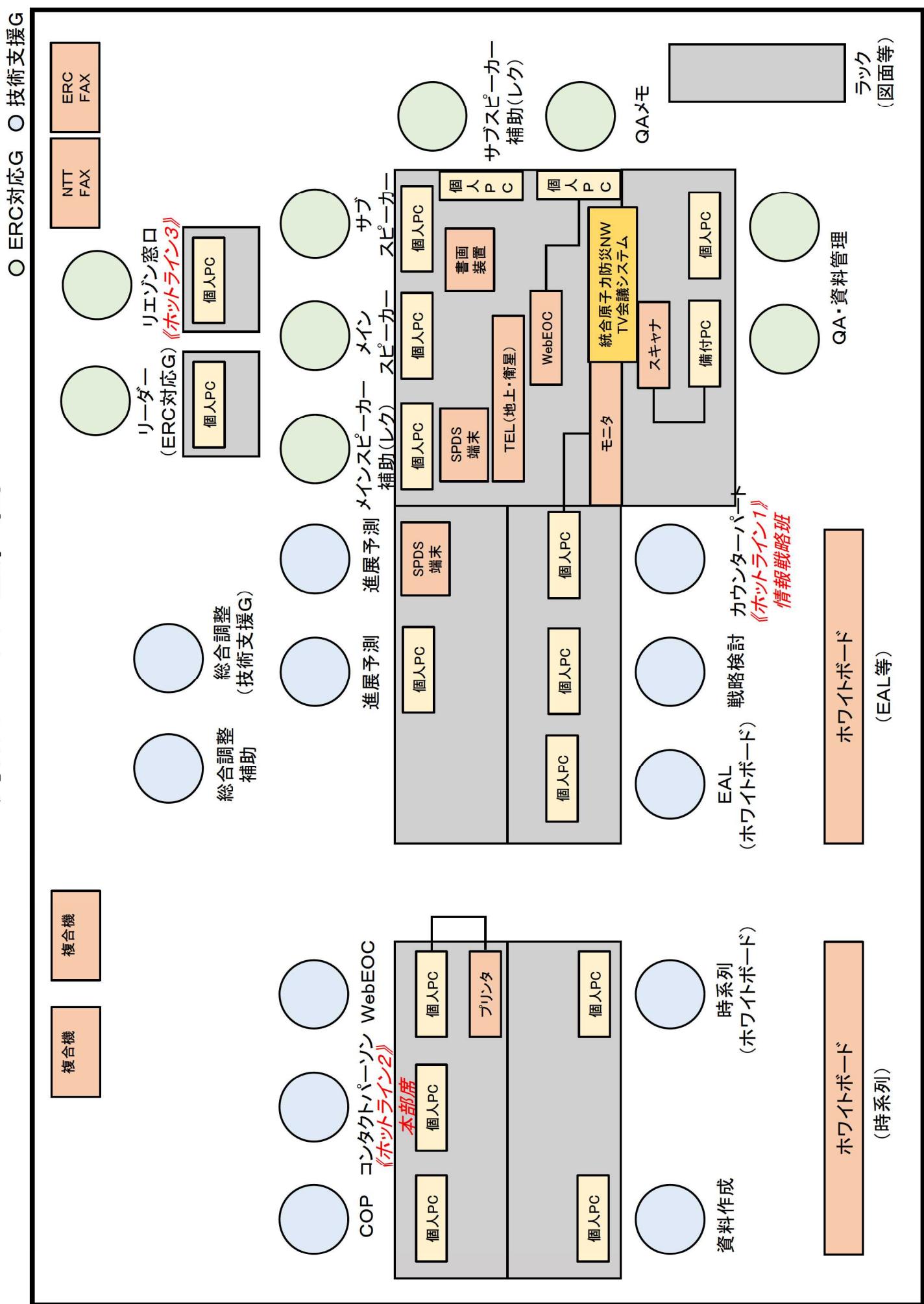
別紙1-5



## 緊急時対策所レイアウト図

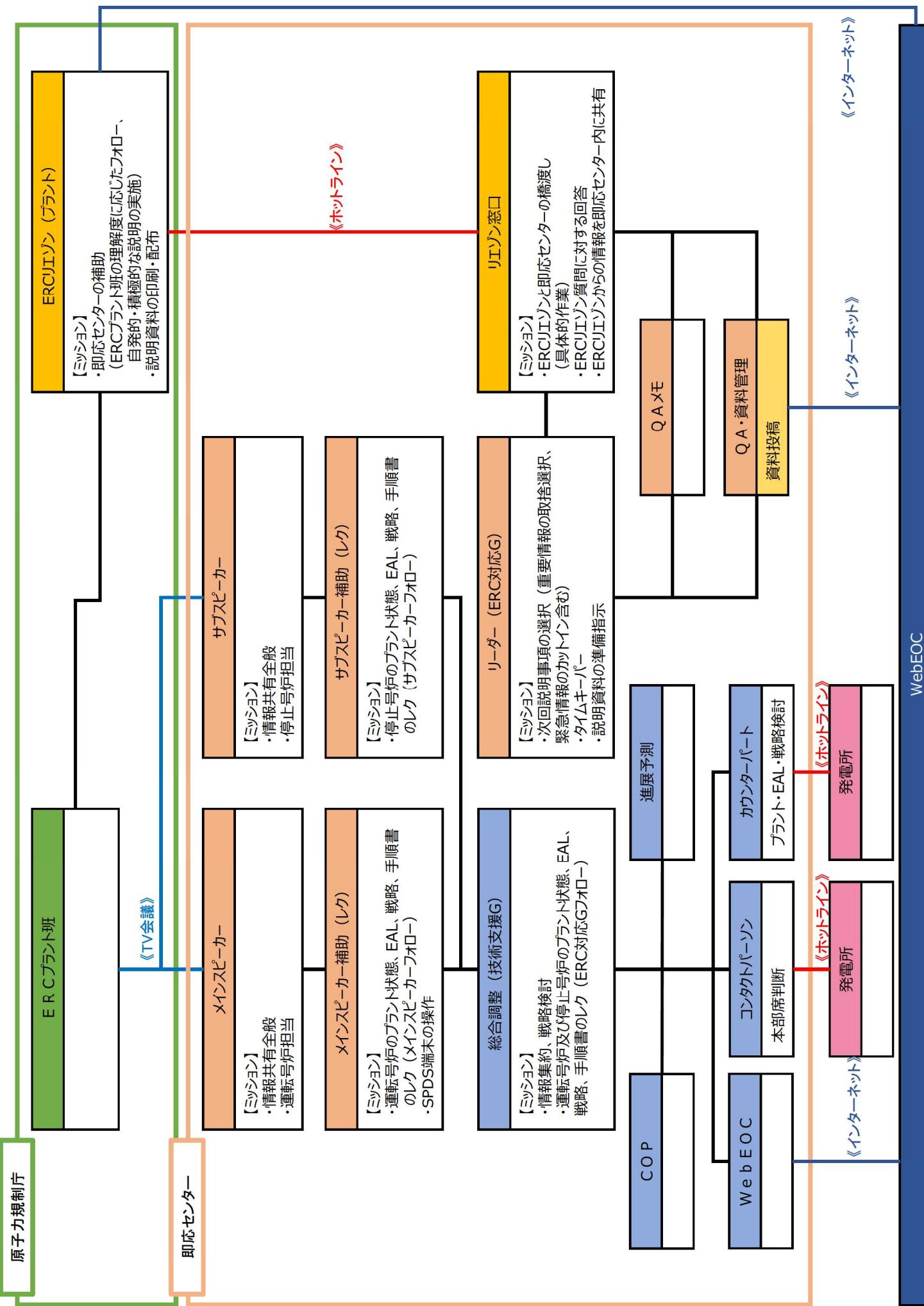


# ERC対応ベース 配置図

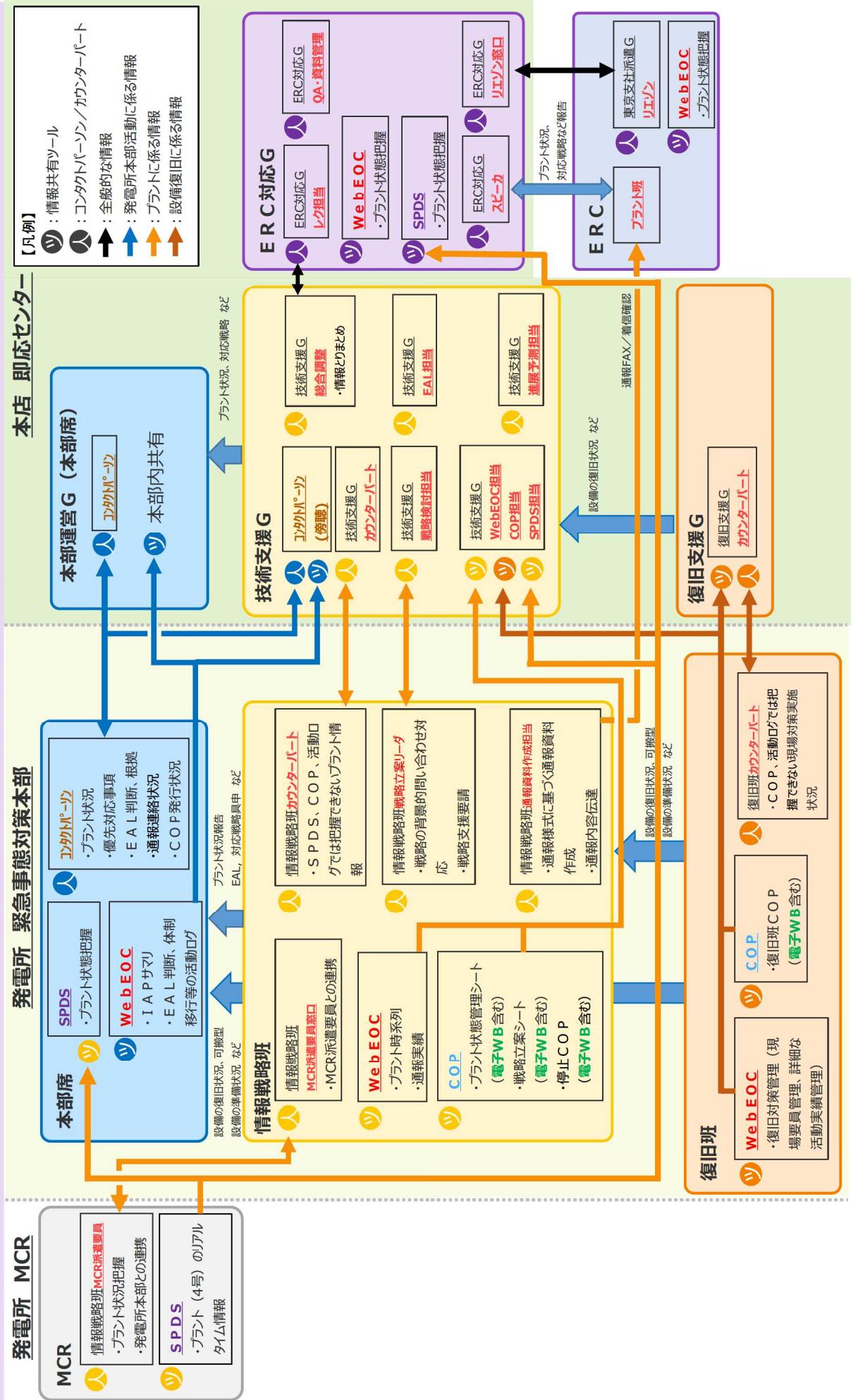


※G内の情報共有のやり方について改善を図っており、配席が変更となる可能性がある

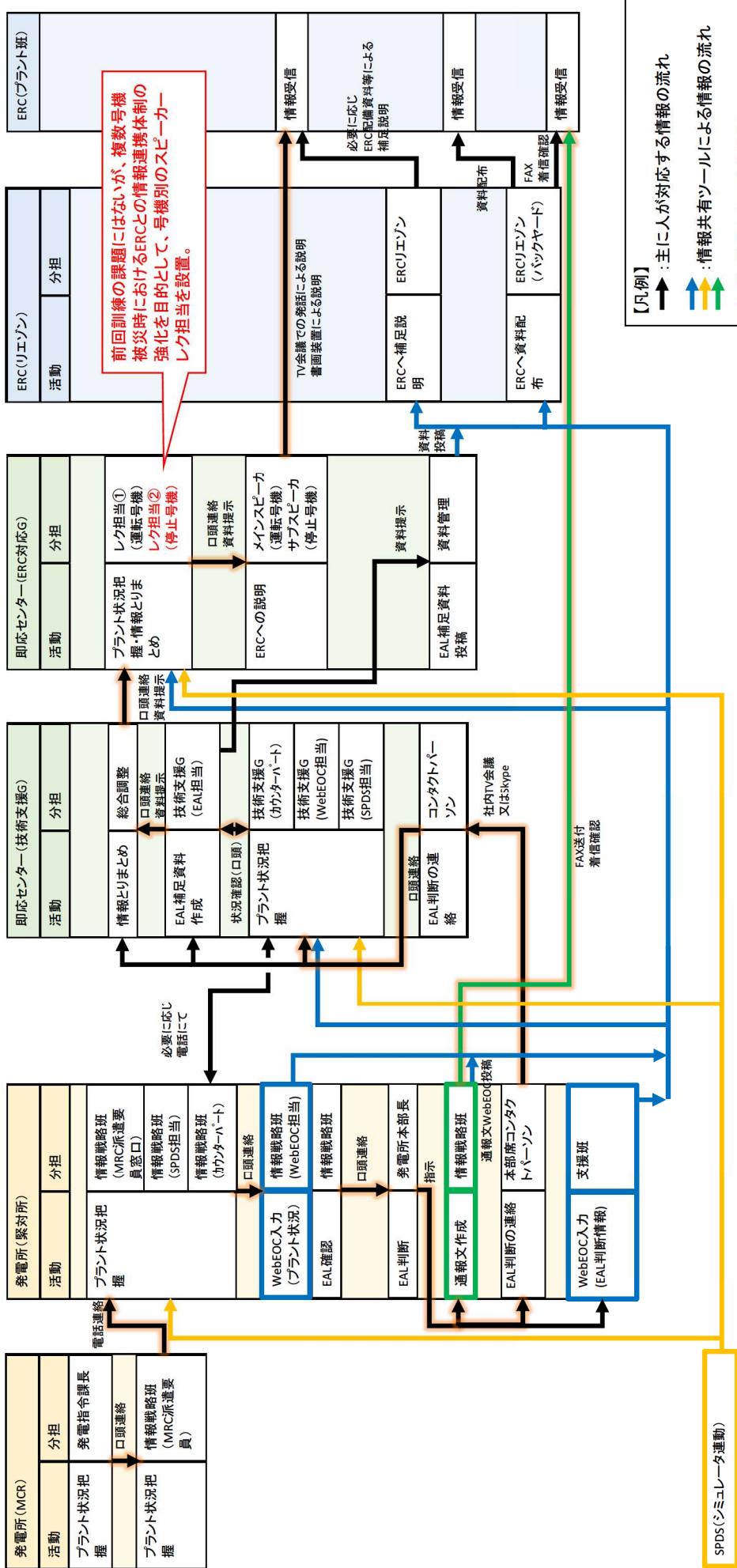
# ERC対応ベース 役割分担



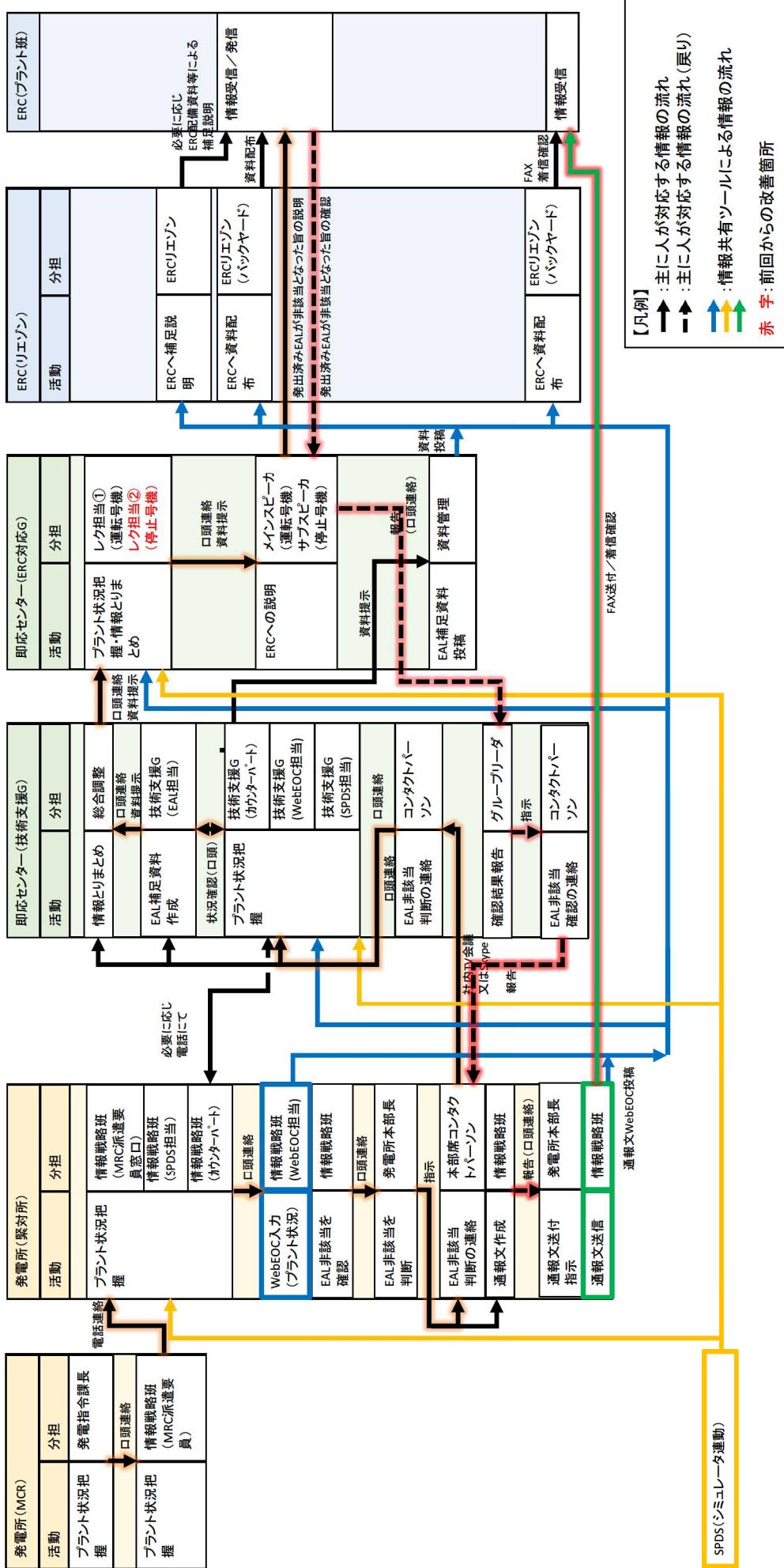
## ERCへの情報の流れ（全体）



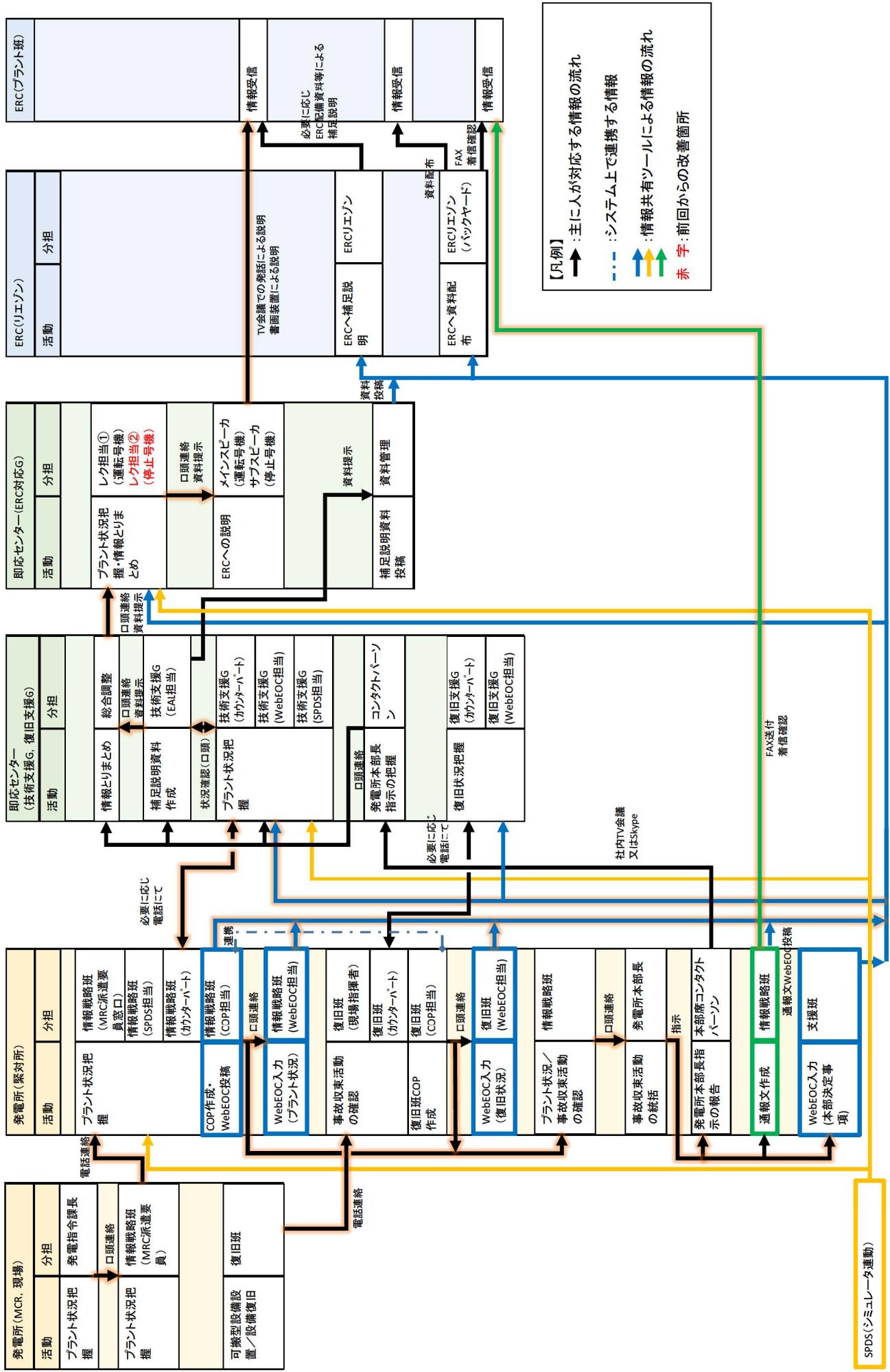
①-1 EAL(発出)に関する連絡



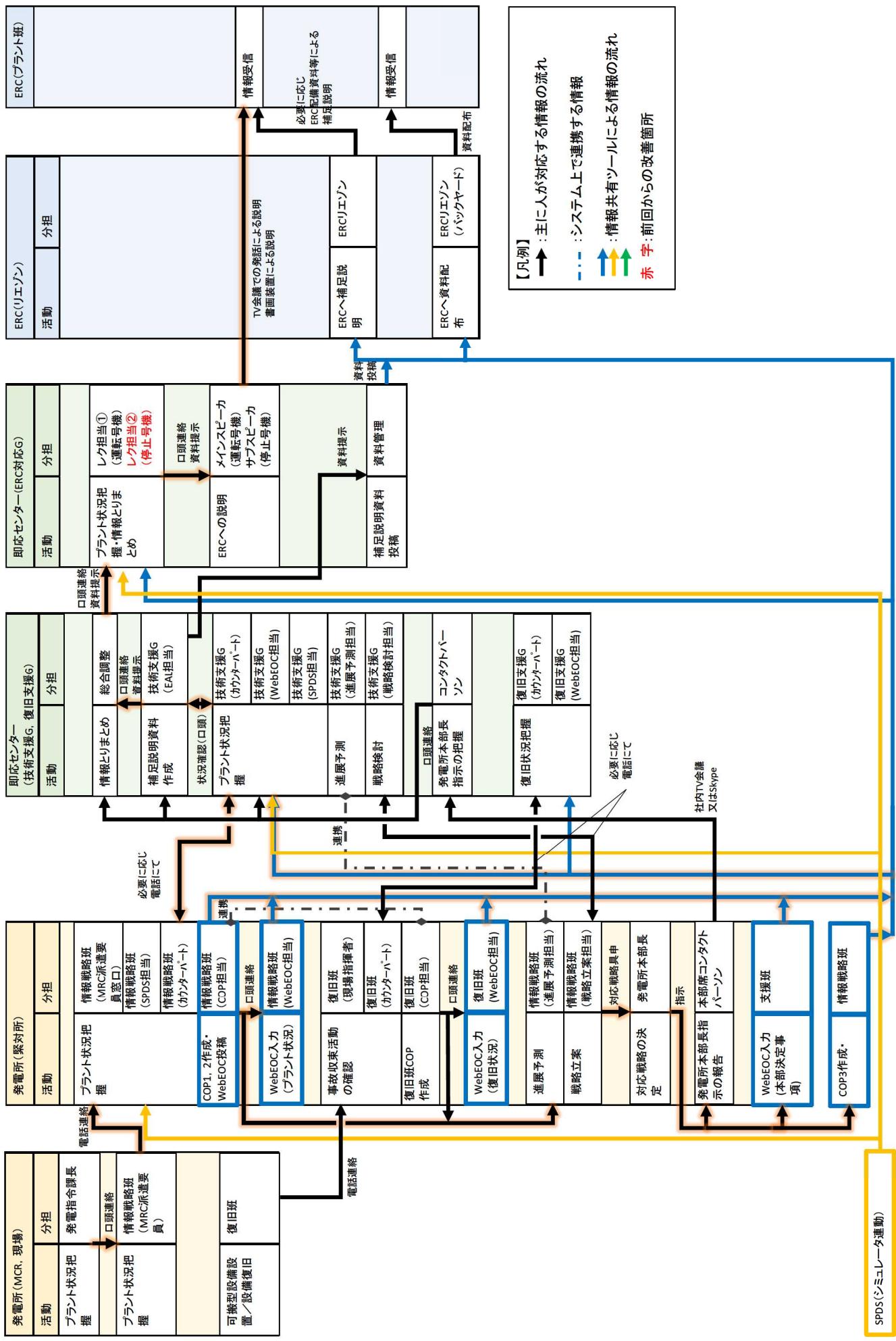
①-2 EAL(非該当)になった場合に関する連絡



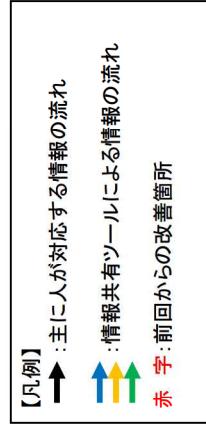
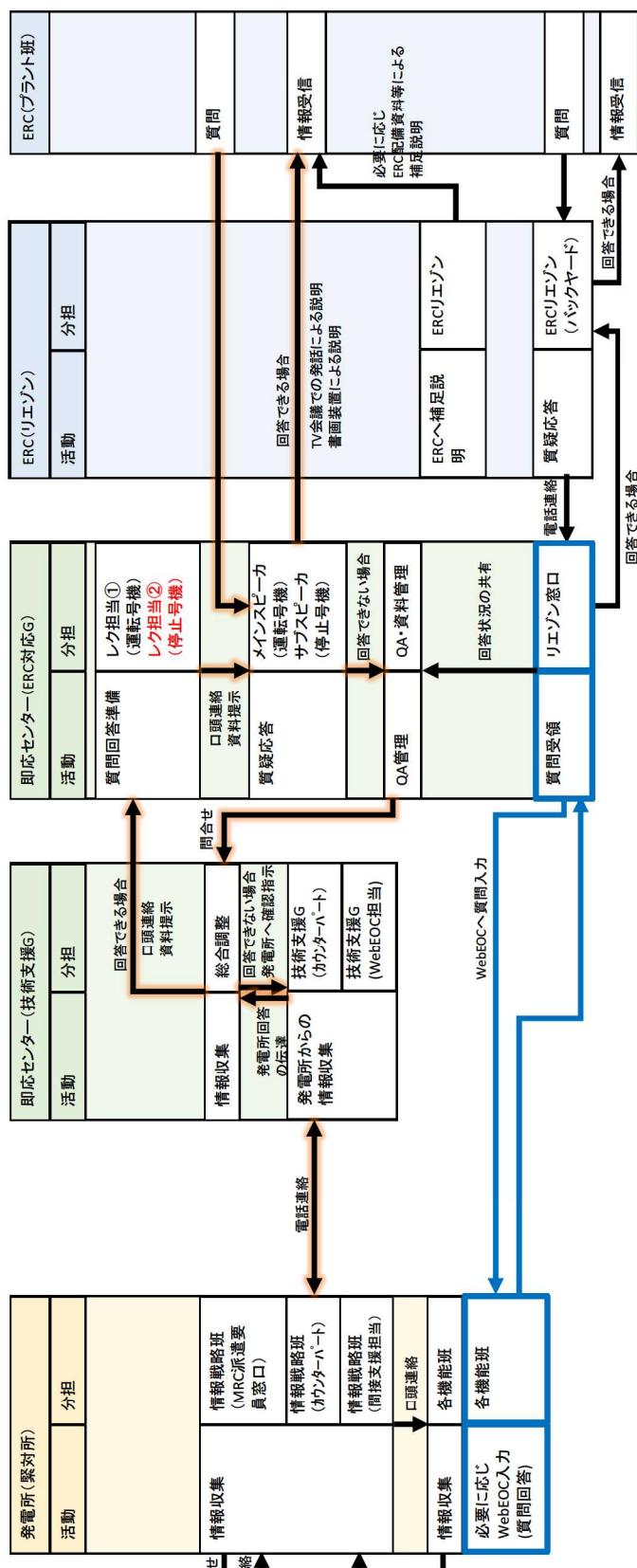
## ②事故・プラントの状況



③事故収束対応戦略、④戦略の進捗



⑤ERCプラント班からの質問への回答



## 前回訓練の訓練課題を踏まえた訓練実施計画等の策定

問題点	原因	改善策	検証計画・確認方法
(1) 発電所緊急事態対策本部 a. プラント長期戦略の情報共有不足に係る改善	<p>①長期的な復旧戦略について、発電所では検討し纏めていたもとの、発電所の各機能班及び本店などの発電所外への十分な情報共有がなされた。</p> <p>②本店は、発電所に対し全体を俯瞰した長期的戦略検討の助言ができなかつた。</p>	<p>①発電所は、フィルタベント回避など短期的な対応戦略の検討及びその情報共有に意識が集中しており、プラント冷温停止までの長期的な対応戦略の検討及びその情報共有の意識が不足していた。</p> <p>②本店は、短期的な対応戦略の助言及びその情報共有に意識が集中しており、プラント冷温停止までの長期的な対応戦略検討の助言及びその情報共有の意識が不足していた。</p>	<p>长期戦略の立案を主眼とした訓練を実施し、発電所及び本店の要員に対して、長期的な対応戦略の検討及びその情報共有が重要であることを意識付ける。</p> <p>①発電所は、発電所外への十分な情報共有に意識が集中しており、プラント冷温停止までの長期的な対応戦略検討の助言及びその情報共有の意識が不足していた。</p> <p>②本店は、短期的な対応戦略の助言及びその情報共有に意識が集中しており、プラント冷温停止までの長期的な対応戦略検討の助言及びその情報共有の意識が不足していた。</p> <p>③発電所及び本店の要員に対して、長期的な対応戦略がオフサイト活動（住民避難等）に重要な情報であるという認識が不足していた。</p> <p>・長期戦略の検討及び情報共有の重要性について教育を実施した。</p> <p>・長期戦略の検討及び重要性について教育するとともに、図上演習（習熟訓練）を通して、長期戦略の重要性を意識付けた。</p> <p>・長期戦略の検討及び情報共有の重要性について教育を実施した。</p> <p>・長期戦略の検討及び重要性について教育するとともに、図上演習（習熟訓練）を通して、長期戦略の重要性を意識付けた。</p> <p>・長期戦略の検討が必要なシナリオを設定し、発電所は長期戦略を検討し関係各所に情報共有できていること確認する。</p> <p>① 長期戦略の検討が必要なシナリオを設定し、発電所は長期戦略を検討し関係各所に情報共有できていること確認する。</p> <p>② 本店は、発電所が立案した短期的な戦略及び中長期戦略を把握するとともに、万一の事態に備えてプラントメーカーや協力会社との連絡体制が確立できることを確認する。</p> <p>③ 発電所及び本店は、事故進展の予測を行い、関係各所に情報共有するとともに、プラント運動が予測通りに進展していることを確認し、予測と異なる場合は遅滞なく修正ができることを確認する。</p>

問題点	原因	改善策	検証計画・確認方法
b. 通報文の通し番号に係る改善	通報文の通し番号について、ルールに従った対応（号機を区別し付番する手順）ができなかった。	<p>通報文の通し番号に関する手順は、手引に定めているが、通報文作成に係る教育資料に記載がなく、要員に浸透していなかった。</p> <p>①通し番号に関する手順を反映した通報文の記載例を作成する。</p> <p>②定期的に実施している通報連絡に係る教育・訓練にて、通し番号に関する手順を周知する。</p>	<p>&lt;検証計画&gt;</p> <p>2020年2月28日総合訓練において、改善策の有効性を検証する。</p> <p>&lt;改善策①の対応状況&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通し番号に関する手順を反映した通報文の記載例を作成した。</li> </ul> <p>&lt;改善策②の対応状況&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たに作成した記載例について教育するとともに、図上演習（習熟訓練）を通して、通し番号を記載するよう習熟を図った。</li> </ul> <p>&lt;確認方法&gt;</p> <p>①② 通し番号に関する手順を反映した通報文の記載例に基づき、通報文を作成できていること。</p>
(2) 本店緊急事態対策本部	a. 模擬記者会見における外部への配慮不足に係る改善	<p>①配布資料（プレス文）に略語を多用していた。</p> <p>②説明に略語を多用していた。</p> <p>③今後の事象の進展と対策について時間軸を含めた説明ができるないといった。</p>	<p>①プレス文別紙に記載する情報及び注意事項を明確にして教育する。また、プレス文作成者へ略語集を配布し、別紙に記載するデータの元の資料に略語が使われていた場合も即座に対応できるようにするとともに、社内訓練を通じて習熟を図る。</p> <p>②説明者が、一般の方々に対し解りやすい（略称や略語を使用しない）</p>

問題点	原因	改善策	検証計画・確認方法
<p>語をつい使つてしまつた。</p> <p>③説明者のサポート体制が不十分であつたため、今後の事象の進展とその対策についてしつかりと把握しきれていなかつた。</p>	<p>説明が出来るように社内訓練で対応力向上を図る。</p> <p>③説明者のサポート要員として原子力技術系要員を配員することでプラント状況や事故収束対策を把握し、説明できるようにする。</p>	<p>熟訓練) の機会を利用して習熟度を確認予定。</p> <p>&lt;改善策②の対応状況&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図上演習（本部運営熟訓練）の機会を利用して習熟度を確認予定。</li> </ul> <p>&lt;改善策③の対応状況&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プラント状況や事故収束に向けた対応状況を把握する要員を配置し、従来 5 名であったサポート要員を 9 名に増員した。</li> <li>・また、SPDS データ画面、本店本部ブリーフィングの状況がプレスルームで確認できるように設備の増強を図った。</li> </ul> <p>&lt;確認方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記者役に対して、わかりやすい広報対応が実施できることを確認する。</li> <li>・記者からの質問に対して回答できることを確認する。</li> </ul>	<p>【検証計画】</p> <p>2020 年 2 月 28 日総合訓練において、事態進展に応じて初動のインフラ準備事項が実施できることを確認し、対策の有効性を確認する。</p> <p>&lt;改善策①の対応状況&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初動活動のチェックリストを作成した。</li> <li>・また班員の知識及び力量向上のため、OFC 内で使用する TV 会議システム、モバイル PC での Skype 通信、WebEOC 操作等の OFC 通</li> </ul>
b. OFC 派遣班の未実施事項に係る改善	<p>①OFC 到着前の班員分担は実施できたものの、OFC 到着後の実施すべき項目（TV 会議システムの立て上げ）が明確となつていなかつた。</p> <p>②Skype が使用できない場合の復旧手段・代替手段への切替タイミングが明確でなかつた。</p>	<p>①OFC 到着後の初期活動の実施項目チェックリスト（具体的な対応項目）を作成し、実施すべき事項項目を明確にする。</p> <p>②システム不具合時の復旧手順の作成及び、代替手段への切替タイミングの明確化を図る。</p>	<p>【検証計画】</p> <p>2020 年 2 月 28 日総合訓練において、事態進展に応じて初動のインフラ準備事項が実施できることを確認し、対策の有効性を確認する。</p> <p>&lt;改善策①の対応状況&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初動活動のチェックリストを作成した。</li> <li>・また班員の知識及び力量向上のため、OFC 内で使用する TV 会議システム、モバイル PC での Skype 通信、WebEOC 操作等の OFC 通</li> </ul>

問題点	原因	改善策	検証計画・確認方法
			<p>信機材使用訓練及び当該チェックリスト等の確認を12回／年実施することを「2019年度年間個別訓練計画（OFC派遣班）」へ反映し、習熟を図ってきた。</p> <p>＜改善策②の対応状況＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>システム不具合時の復旧手順及び代替措置の対応について初期活動のチェックリストへ反映することで明確化するとともに、前述の12回／年の訓練を通じて、初動活動の実施事項の習熟を図ってきた。</li> </ul> <p>＜確認方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事態進展又は防災専門官からの要請（模擬）に応じてOFCへ派遣し、初動活動のチェックリストを基に通信機材を立上げ、本店やその他拠点との情報共有ができる事を確認する。</li> <li>また万ーシステムの不具合が発生した場合は、初期活動時のチェックリストに基づき対応できることを確認する。</li> </ul>

2019年度総合訓練に係る対応スケジュール

カテゴリ	実施事項	2018 年度												2019 年度						2020 年度						備考
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月							
CHECK	訓練報告	○2018 年度訓練報告書					▼													※ 1 ・訓練実績を踏まえた課題の抽出。 ・前回中長期計画見直し。						
ACTION	改善実施	○改善対策の具体化																		※ 2 2018 年度訓練実績や中長期計画を踏まえて、2018 年度末に 2019 年度訓練計画を作成。						
	・様式、マニュアルの改訂																									
	・体制の変更			▼																						
	・習熟訓練（変更内容の周知・教育を含む）				▼	▼			▼										▽							
	○中長期計画見直し (検討項目※1)					▼																				
PLAN	訓練計画	○2019 年度訓練計画策定				▼	※ 2																			
DO	訓練実施	○2019 年度訓練実施																	▽							
CHECK	訓練評価	○訓練評価																		▽						
	・社内自己評価																			▽						
	・対策の有効性評価																			▽						
	・パンチリスト対応																			▽						
	・課題の抽出、原因分析、対策検討																			▽						
	・対策の方針決定																			▽						
	○2019 年度訓練報告書																			▽						
ACTION	改善実施	○改善対策の具体化																		※ 4 図上演習の具体化及びⅡ型訓練の追加。						
	○中長期計画見直し検討																			▽						
	○事業者防災業務計画見直し検討開始																			(必要に応じて反映)						
PLAN	訓練計画	○2020 年度訓練計画策定																		▽						
DO	訓練実施	○2020 年度訓練実施																		▽					(未定)	